幼兒の敎育

第三十卷　八月號　第八號

東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

新刊

参考世界美術讀本

西洋篇

東京美術學校教授 小林萬吾・中村亮平共著

菊判全一冊洋綴原色版圖四葉コロタイプ四葉、定價金三圓三十錢、送料金十八錢

美術の鑑賞と教育の大殿堂は本書に據りて漸くか開かるる

人類文化の一面を燦かに彩れる美術の鑑賞が教育の情操方面に寄與する効果は實に偉大なる物である。併し美術の殿堂は廣くして深く其の全般を直ちに窺ひ得ず。之れが好個の手引は萬人の期待する所である。本書は此目的に於て、古代西班牙アルタミラの洞窟壁畫の原始美術から埃及。メソポタミヤ。希臘。羅馬初期キリスト教。ゴシツクの各時代を經てルネツサンスに至り次でバロツク、ロココの美術より近代及現代に至る迄各時代を劃せし歐洲の代表的畫家、彫刻家等百數拾名を擧げ先づ時代の思潮を述べ次で一々其作風、傾向、傳記、代表作等に付て詳說し猶且つ建築美術にも及ぶ等本書一卷に於て克く歐洲美術の概觀を系統的に明白に興味深く紹介す。教育家の乞必讀。

帝國美術院會員
東京美術學校教授
岡田三郎助
丹羽禮介 共著

新刊 學校家庭 圖畫描き方の基本と其の畫集
菊判全一冊洋綴 定價二圓五十錢 送料十八錢
作畫の第一階梯として一、圓型 二、三角型 三、四角型の之等の配置交錯に依り如何に簡單に描かるゝかを兒童に會得せしめるに努む

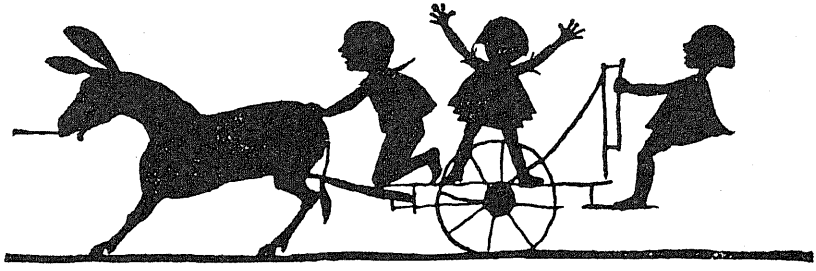
三版 學校家庭 應用略畫集と其の描き方
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢
實物寫眞と寫生圖と略畫の三樣の比較を如實に示す等、用意周到、懇切叮寧を極めた教育略畫集の寶庫であり、指導書であります。

六版 學校家庭 クレヨン畫集と其の描き方
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢
一本の線より順序を經て畫に成る迄即ち素描と彩色の過程を懇切丁寧に實例に於て說明してあります學校教育家並に家庭の必佛を乞ふ

五版 學校家庭 應用圖案畫集と其の描き方
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢
本書は其應用の範圍頗る廣汎にて圖畫教育は勿論ポスター、表紙、裝幀、染物編物等克く圖案の作意を會得し、且つ製作家たるを得。

新刊 學校家庭 萬有圖畫全集と其の描き方
菊判金一冊洋綴 定價四圓八十錢 送料二十七錢
小學校各學年の各學科修身、國語、國史、理科、地理等に取材し、クレヨン畫、着色圖案畫、毛筆ペンの略畫の三種に依つて描く所千數百。

發行所 東京市牛込區天神町一辨 中文館書店 電話牛込三三八四 振替東京三二五七



日本幼稚園協會編輯　幼兒の敎育

會長　東京女子高等師範學校長　吉岡郷甫

主幹　東京女子高等師範學校敎授　附屬幼稚園主事　堀七藏

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒敎育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒敎育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ稗益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒敎育ニ關スル研究及ビ調査

一、幼兒敎育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催

一、雜誌發行（毎月一回）

一、幼兒敎育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ稗益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ役員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽトアルヘシ

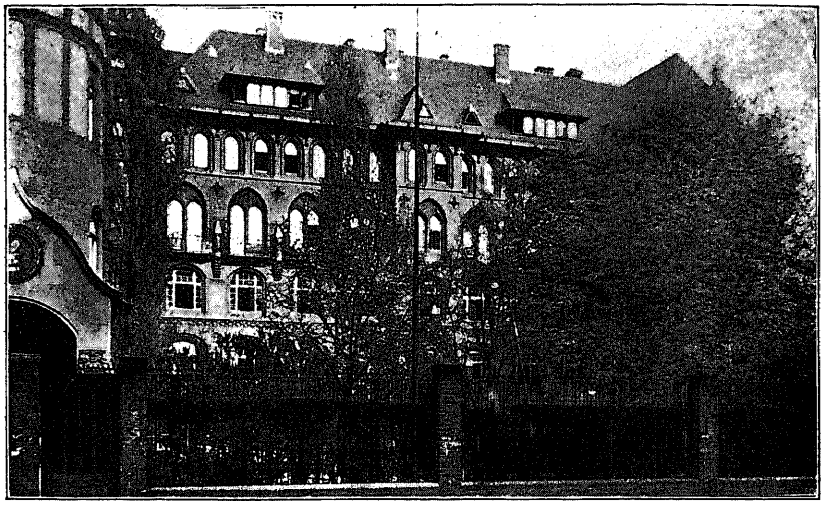
第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルヿトヲ得ズ

第三十卷　幼兒の教育　第八號

——(目　次)——

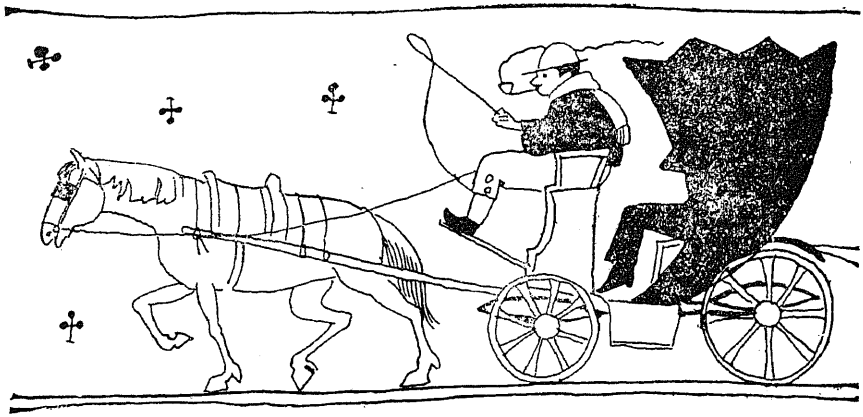
口繪
砂遊び・何が出來るでせう？（附屬幼稚園）
ペスタロチー・フレーベルハウスの外觀
ペスタロチー・フレーベルハウスの自由遊び
幼兒の運動遊戯(三)……堀　七藏…(二)
歐米に於ける學校給食の現狀（承前）……原　徹一…(一六)
鳥の生活と巢箱……哲　化人…(三〇)
童話を幼兒に話す準備的過程……小野　直…(二九)
水！水！水！……水谷年惠子…(四七)
童話
王樣のお池・蛇の卵・お菓子と蟻……小野　直…(五一)
敵討をされた猫君の話……土田和雄…(六一)
睡蓮……大岩　金…(六五)
幸吉の旅……岡田みつ…(六九)
雜錄　家庭教育振興に關する諮問の答申案・昭和三年度幼稚園統計・文部省主催幼稚園に關する講習會……(八〇)

砂遊び・何が出來るでせう？ （附屬幼稚園）



ペスタロチー・フレーベルハウスの外觀

ペスタロチー・フレーベルハウスの自由遊び



第三十卷　幼兒の教育　第八號

昭和五年八月

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、卽ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進步發展を期する大抱負をもつて產れたもので有ります。

幼兒の運動遊戯（三）

堀　七　藏

一

幼兒の生活は凡て遊戯であることは何人も否定出來ない。只仰向にねころがされてゐる嬰兒でも手を動かし、足をバタ〳〵させて滿足し、光るものを眺めから〳〵する音をきいて喜んでゐる。歩行が出來るやうになつた幼兒でも、めがさめると食ふか飲むかする以外はとんだりはねたり一時も休息することなく、朝から晩まで遊んでゐる。疲れると眠り、眠からさめると玩具で遊び、人形と話し、木の葉や石片を相手として獨り遊びをなすものである。更に遊び友達を要する頃になつても朝から晩までいろ〳〵の遊びをなしてその生活を充實させてゐるのである。若し幼兒の生活から遊びを取除けば殘るものは只生理作用が行はれ、睡眠休息だけとなるものである。幼兒の生活は實に遊びの生活である。この遊びにつきジョンソンの遊戯及び競技による教育中から上野陽一氏は次のやうに紹介してゐる。

一、嬰兒期（〇——三歳）

嬰兒期に特有なる遊びは感覺的及び運動的の試みである。皮膚感覺・視覺・聽覺・嗅覺・味覺の器官を刺戟するやうなものならば外物は勿論、自分の身體の一部分までもその目的のために用ひる。握る・引く・おす・吸ふ・味ふ・落す・摘み上げる・ヨチ〳〵歩く・木上りをする・走る・搖する・搜す。

更にこの期の終りになると簡單な模倣的描寫的の活動その他似よつた反應を營む。これ等は皆筋肉や感覺器官を適當に働かして快感を齎らすものである。

遊戯が主で競技といふものはない。遊戯にも一定の形式がなく興味は多樣で散逸し易い。

又主として玩具の時代である。メージョアは四十五分間に一嬰兒の行つたことを觀察叙述してゐるが、それを見るとこの期に於ける遊びが如何なる性質のものであるかが分る。實にこの期に於ては玩具が嬰兒の時間と勢力との全體を吸收してゐるといつてもよい。「ねない〳〵ばー」「ちよちちよちあわゝ」や「おつむてん〳〵」の如きものはこの時期から幾分遊び仲間を要求してゐることの證據になる。尤もこの時代は後の時期ほどには仲間を要求してゐない。その仲間といふのも、それによつて何物かを得ようとするのが主で、仲間に對して何物かを與へるといふことはない。卽ち愛他的の社會的衝動によつて仲間を求めるのではない。この期に兒童の營む活動は殆ど全く個人的、自己中心的、或は利己的である。而してその結果として感覺的の能力と基本筋とが發達して行くのである。

二、兒童前期（四——七歲）

前期に於ける兒童の活動は引きつゞき今期に繼續せられ精練され完成されて行く。この期に於ても嬰兒時代と同じく遊びそのもの、活動そのものが目的であつて、それによつて何か他の目的を達しようといふやうなことはない。しかしこの期に於ては想像も次第に活動を始め、模倣も重要な位置を占めるやうになるから簡單な劇的の遊びと描寫的の遊びとが多くなつて來る。

仲間を欲する念も增加する一方には個人的の欲望も强くなり一人の遊び仲間がゐるとそこに競爭が起つて來る。一方仲間を求むの念は益々强くなり、仲間と共に遊ぶおかげで言語も發達し、利己心を抑へ、十分に社會化して行く途が開ける。

この期に於てもおもちや遊びは子供の生活の一半を占めてゐる。しかしその遊び方を見ると大きな筋を支配する力が次第に發達し、何か或目的を立てゝそれに達するために努力するやうになる。尤も興味は移り易く、困難な目的を達するために辛抱するといふことがない。或目的を達するために一時間又は一日の間熱中してゐても次の時間又は次の日にはそれを忘れて他の目的に走つてゐることがある。之に反し若し子供の周圍の事情に變化がない場合には幼稚園時代の子供が極めて簡單なる遊びを幾週間もつゞけて飽きずにゐることがある。

又好奇本能の發達と共に種々の疑問を提出する時期であるから、そのために多くの遊戲的活動に形式を與へ、之を刺戟し活躍せしめ、心身の活動を促し、その發達を來すことになる。心身の發達を測定す

るには遊戯の性質の變化を見て推察するのが一番よい。

三、兒童後期（八――一二歳）

この期は心身共に再順應の時期であり過渡期である。生長は前の時期及この後の時期よりも遲い。殊にこの期の後半は身體的には安定の增す時である。卽ち腦は殆どその成熟した形に達し、その機能が急に進歩しつゝある時である。この期の終りになると勢力も活力も間斷なく增して行くから異常の疲勞も減じ、疲勞し易い性質も少くなる。この時代が兒童の生活中最も活動的の時期であつて、この時期ほど澤山の遊戯を行ふ時はない。好奇の傾向は益々甚しく人や物について絶えず質問が行はれる。想像は活動的であるけれども調整され、前から見ると建設的創造的になり、模倣は新しい形式をとりよほど目的性を帶びて來る。遊びには次第に知的分子が殖えて來つゝはあるがやはり運動的側面の方が勝つてゐる。

又今までよりは意味のある一定した方向に努力し熟練を必要とするやうな活動に努力するやうになる。例へば石けり、竹かへし、おてだまの如き遊びが盛に行はれる。かくて熟練が增して來ると遊戯は著しく個人的競爭の色彩を帶び、その競技は最も明らかに子供の本性を暴露して來る。遊戯に比べて競技の數が著しく殖えて來るから競技の規則に服從する必要を生じ、一層仲間を必要とするやうになる。法に對する尊敬心も發達し、法の命ずる强制にも甘じて服するやうになる。しかしながら複雜な大人の

文明社會に行はれる法が兒童の行動を束縛し始めるのはこの期の終りから次期の初めにかけてである。眞の協同は後に至つて發達するので、競技の組織もさほどやかましくなく、團體としての競爭よりも寧ろ個人的の競爭の方が多い。

この時期に於て如何なる興味が主位を占めてゐるかを調べて見ることは兒童の本能と能力と特質とを知る上に大なる參考となる。まづこの期間に於ける主たる興味は女兒の人形及びまゝ事遊び、組織の嚴密でない鬼ごつこ全部（圓鬼・ため鬼・柱鬼・しやがみ鬼など）傳說的遊戲の大部分、簡單な球遊び、蒐集、考へもの等である。走り・飛び・投げ・打つ・木上り等荒つぽい活動の行はれるのもこの時代である。

この期の終りから次期の初めにかけて男の子は特に文明人らしくないものになつて來る。年少年長のもの及び異性に對しては勿論同年同性の仲間のためにも計つてやらない。リーはこの時代をビッグ・インヂャン時代と名づけた。蓋しこの年頃の子供は「己れは大きなインド人だぞ」といつて威張るところから名づけたので、「お山の大將」時代ともいふべき時代である。丁度この頃の男兒が肉體上に於ても精神上に於ても原始人類と著しく似てゐることは遊戲を研究する人の一致して感ずる所である。この時分の子供は鋭くて敏活で益々巧妙になり、人に依賴せず獨りぎめするやうになり、自分の身體はよく使ひこなし、年長者と遊んでも決して年長者に勝たしておかない。十一二歲になると兒群やクラブやチームやその他組織の不完全な團體を作つて、それが主たる勢力を振ふやうになりその結果として遊戲や競技の

數は減ずるけれども持續力を增加するやうになる。以上の如く說明して更に靑年期（十三――十六歲）の遊びについても說明してあるが玆にはその必要がないから省略する。

一

六月下旬の一日正午すぎから一時までの間東京女子高等師範學校附屬幼稚園の幼兒達が晝食をすまして自由に遊んでゐるところを各室にわたつて觀察する。携帶品置場から六つの保育室更に廊下及遊戲室、それに外遊びをなす幼兒の自由遊び只その有樣を觀察するだけにまわつて步く。約四十分の觀察でありまし滿四歲と滿五歲との幼兒であるから、ジョンソンの所謂兒童前期（四歲より七歲）の時代のものである。しかも幼稚園生活を初めて二三月しか經過しない幼兒ともう既に一ヶ年以上の幼稚園生活をしてゐる幼兒とで大分遊び方が違つてゐる。是等の明白な區別はこれを文章で表出することは困難であるから玆にはどんな遊びが行はれてゐるかだけでも明白にしたい。

森の組（滿四歲兒）に行くと男兒四人が專ら一團となつて積木。所謂床上積木を床から机の上に廣げて遊んでゐる。大體は汽車か自動車の如くなつてゐるが、それ〳〵一箇若くは二箇の積木を机上にすべらせてゐる。一人は積木を五六箇重ねて家をこしらへてゐるといふ單純なものである。しかし單に積木を以て建物を積むで表出するといふことに興味がなく、動かして遊ぶといふ動的な活動となつてゐる。

この組で寢臺から黑板の前にかけて男兒二人、女兒六人ばかりが莫蓙をしき、その周圍に腰掛を五も六も集めて遊んでゐる。初めは何であるか分らないし、また何の遊びをなしてゐるか尋ねることもしなかつたが、後に見るとお風呂に入るところ。衝立が出て來てゐるといふ有樣で、幼兒が家庭に於て行ふ生活を實演するものであることが分つた。尤もこの生活を遊びとなすにも中心になつてゐる女兒が二三人で、他は隨時加はるかと思へば更に他の遊びのためにこの團體を離れるといふ有樣で、二三人の女兒と男兒とは附隨的であり移動性のものである、しかしこの生活を遊ぶ事項も四十分同一のものが繼續してゐるのではなく、次から次と變化し移動するものである。只莫蓙と腰掛とが使用せられ、保育室內に於て行はれることが一貫してゐるにすぎぬ。

遊戲室に入つて見ると實習科生徒二三人を中心にして男兒が八人で鬼ごつこをしてゐる。鬼ごつこは簡單なものであるが、まだ幼兒だけで行はれない。それに大人を必要とすることが注意すべき點である。大人が入ると八人も十人も集つて、まとまつた遊びが出來る。けれども幼兒だけでは中々左樣には行かぬ。「おにごつこするものよつてお出で」と、年長兒が肩くんでさそつても集まるものは五六人。それも鬼ごつこまでにならないで、駄目になることが多い。大人があつて統制すれば鬼ごつこが出來、多少長つゞきもするが、そうでも十分間とたゝぬ中に二三人がぬけてしまつたり、新手が入りこんだりするのが普通である。

四人の男兒がヒルの積木を遊戯室の一方の壁から床上を長くつないでレールとなし更に窓のところまで續け、そこから短い積木を電車にして、しきりに發車したり停車させたりしてゐる。この遊びは四人が一團となつてゐるが、それ〴〵電車を一つゞつ走らせてゐるから個人の遊びと團體の遊びとが組合さつて行はれてゐる。一方には五人の男の兒がシーソーにのつたり下りたりして遊んでゐる。

次に林の組（滿四歳兒）に入ると男の兒四人が寢椅子の上にねたり起きたりしてゐる。何を遊んでゐるか判然しない。また女の子二人男の兒五人が床上積木で遊んでゐる。別にまとまつたものをつくる譯でもないが、積んだりくづしたりしてゐる間に電車になり汽車になりしてゐる。

一寸外遊を見るとブランコには女兒七人が遊んでゐる。六人しか乘れないが、一人は横にゐて待つてゐる。入園當初はブランコに乘つても他人に動かしてもらはねばならぬが、滿五歳兒になると大抵は獨りで上手に動かしてゐる。それで滿四歳兒がブランコを使ふときは保姆の方で動かしてやるか、幼兒相互に動かしつこせねばならぬが、滿五歳になるとその必要のないのが普通である。スベリ臺には女兒が二人ゐてすべつてゐる。この滑り臺は滿四歳兒にむくもので、滿五歳になると普通只すべる位では滿足せぬ。いろ〳〵の變化をさせ、時には危險な位に見えるすべり方をするやうになる。若しそれをさせないときは寧ろ自分で動かし得るブランコに集まる方が多い。

更に遊戯室に引かへして見るとシーソーは男兒一人女兒三人に變化して居り、おにごつこが十一人と

なり、中に女兒が三人加はつてゐる。積木を遊んでゐる幼兒は相變らずである。

今度は森の組に引かへして見ると寢椅子のところへ腰掛を持つて來て遊んでゐる男兒が七人に變化してゐる。積木遊びをしてゐる男兒は三人一團となり二人が一組となつて遊んでゐる。それでこれは前の幼兒らしい。いつの間に實習科生徒が三人加はつて幼兒の作つたカルタを男兒八人、生徒三人でやつてゐる。年長の幼兒が第二期に作つたカルタであるが、年少兒でも理解し得る所が多くカルタをとることも出來るものがあるため一通り進行する。寢椅子のところへ女兒が五人來たので、男兒七人と女兒五人、それは大きな分團になつた譯だけが暫くすると男兒がゐなくなる位に速に變化するのも面白い。窓から外を見ると砂場に男兒が四人。水を運ぶものさかさまになつて一生懸命砂を掘つてゐるものなどである。また六人の女兒がジャンケンをやつてゐる。多分鬼ごつこが始められるのであらう。

山の組（滿五歲兒）に來て見ると多くの幼兒はどこかへ行つたが、僅かに二人の男兒がピヤノをポン〳〵と彈じて居り、女兒二人が食後の後始末をしてゐる。女兒が三人でとりまけ〳〵エッサッサと廊下に出て、直に私を取卷いてはなさない。

携帶品置場をのぞくと大積木で軍艦が出來、大砲が据付けられてゐる。砲車係もあり、彈丸を運ぶものもある。軍艦を操縱する係もゐるといふ有樣で、男兒が六人それに女兒が一人加はつてゐる。何れも年長兒である。この大積木は幼兒の力で創作的な表現も出來、面白い遊びが出來るので、幼兒には最も

重要にして興味ある遊び道具である。疲れると腰掛ける。何しろ手早く相談の結果が實地に表現せられ遊びの中心となる大積木である。

更に山の組に引きかへすと女の兒が二人、ピアノを彈いてゐる、つい先程男兒がピアノを彈いてゐたが、何處かに去つて女兒が代つてゐる。幼兒の遊びは實に變化極りない。猫の眼よりも速い變り方である。

この室より庭を見ると小學校尋常科一年の女兒が三人來て木蔭で石けりをしてゐる。石けりは一定の法則があり規約があり、中々技巧を要するので幼稚園では行はれない。滿六歳にもなり小學校に入學する前後の幼兒にはとても面白い遊びではあるが、まだ入園したての幼兒には勿論、もう一年も幼稚園生活をした年長兒にもまだ十分うまく石けりが出來ないので、實際に於て行はれない、十一二月頃から三月頃まで幼稚園の昇降に白墨で圓い輪が七つも八も書いてあり、一ヶ所でなく二ヶ所にも三ヶ所にも石けりの遊びが行はれるのであるが第一學期にはない。更に幼兒が七八人ばかり帽子をかぶつて外遊びに出て來た。庭にまいてある砂利で遊んでゐる女兒が三人、ざるに砂利を入れてゐる男兒が二人ゐる。庭の砂利でも直に幼兒の遊び材料となり、砂利の上を積木一本横にして汗水たらして汽車ごつこをしてゐる男兒があるから面白い。

更に引かへして携帶品置場をのぞくと大積木の軍艦に乘つて遊んでゐる男兒が僅に二人、他はどこへ

行つたやら。

森の組に來て見ると積木には男兒が四人ゐるばかり。カルタの方は男が五人になつてあとはどこへ出かけたか、實習科生徒はとり殘された形である。腰掛と莫蓙を中心にして女兒が四人、一人の男の兒は低い小さな衝立に馬乘になつて女兒の遊びを眺めてゐる。この兒は何時でも高いものに登ることが得意。他の幼兒よりは一段と發育がよく、手荒い遊びがすきである。

遊戯室は大抵の幼兒が出はらつて、シーソーのところに女兒が一人、わくのぼりに女の兒が二人ゐるばかりである。積木をしてゐた男兒も鬼ごつこをしてゐた團體も外へ出かけたと見える。

林の組（滿四歳兒）を見ると男兒が五人莫蓙をしいたところで積木をして遊んでゐる。その隣の池の組の入口では男兒が三人で大積木を携帶品置場から引ずつて來てゐる。蟻の材木といつたやうに長い大きな積木を三人の男兒が汗だくになつて引ぱつてゐる。どうする積りか知らないが、三人の意志が一致したものと見え、携帶品置場から二十間もある池の組まで大積木を引ぱつて行く根氣と勞力とは中々大變なものである。

今度は外に出て外遊をしてゐる幼兒の有樣を見ると莫蓙を小山の坂にしいて、その上をすべつてゐる女兒が六人ゐる。これは年長兒の方である。その横でまゝごと遊をしてゐる男の兒が三人ゐる。これは不思議と見てゐると女兒と合同のものである。女兒は女の仕事、男兒は住居の手入などをするといつた

有様である。また一方には莫蓙を木蔭にしいてお家が出來てゐるが、留守になつてゐる。女兒四人が花壇のところで草むしりをしてゐる。おままごとの材料を採集してゐるのである。これも年長兒の方である。おままごと遊びを主として遊ぶのは年長兒で、年少兒がお客樣になることがあつても主となつておままごとをしない。まだおままごと遊びが充分に出來ないことが分る。自由遊びとなせば組織立つたおままごと遊びが出來ないのである。

砂場には年少組の男五人が一生懸命に砂遊びをしてゐる。五人に統一があるかと思ふとさうではない。一人一人勝手な砂遊びをしてゐるのであるが、別に喧嘩をするでもなく時には共同の動作をなし、時には別個の作業をなすといつた所である。別の砂場には年長兒が砂遊び。男の兒が三人づゝ二かたまり。水道から水を運んで來て山の方から流してゐるものがあり、その流れの末に池をこしらへトンネルをこしらへてゐる。この六人の共同の目的がないのであらうが、兎に角砂に水を中心にして面白く遊んでゐるのはとても幼兒でなくば出來ない場面である。砂場の臺の上に積木を立てゝ遊んでゐる女兒が一人、その横にこなやになつてゐる女兒が二人、煉瓦と煉瓦とをこすつて粉をつくり、それをぬれてゐる砂でこしらへた砂團子につける粉である。水遊びをしてゐるものを利用して池をつくつてゐるのも面白いが、その水でぬれた砂で團子をこしらへてゐる女兒の遊びも連絡があると見れば見られぬこともない。その筈でこの砂場にゐる男兒六人女兒三人は共に海（年長兒）組である。

その隣の砂場を占領してゐるのも山（年長兒）の組。シャベルとおしやもじ、それに積木を使つて山とトンネルをつくつてゐる。積木は汽車となつてトンネルを通る工夫である。男兒五人である。この組の男兒四人砂場の横で砂利を積木でよせてゐる。また二人の男兒はそれ〳〵長い積木に馬乘になつて砂利の上を引ずつてゐる。玉のやうな汗を顏に流して一生懸命である。

砂場が年長兒に占領せられてゐるので、年少兒男九人女五人は先生と一緒に日蔭のところで積木やざるで砂利を集めて遊んでゐる。これは中心に先生がゐるので十四五人の大きな一團である。小學一年生が來て外の流しで水道から水を出して積木にかけて水遊びに餘念がない。藤棚の下には男二人女五人、實習科生徒と柱鬼をやつてゐる。わくのぼりには年長兒男三人女四人がのぼつたり下りたり、また金魚鉢の所に行つたりしてゐる。花壇に花をとつてゐる女兒が二人、まゝことの材料にするのである。その横莫蓙の上に男三人女二人がすはつて主客の接待中でゐる。何れも年長兒である。また別の組では男四人が粉屋になつて女兒のまゝごと遊の御馳走をつくる最中である。これは女兒が三人、男兒が四人で、自然に出來るまゝごと遊びの團體としては寧ろ大きなものである。その横の莫蓙の上では女兒が五人、實習科生徒三人とおはじきをしてゐる。これも勿論年長兒の一團である。

また屋内に入ると遊戯室には積木で汽車ごつこをして遊んでゐる男六人ゐるだけである。森の組に入ると積木遊びをしてゐるもの四人。かめの鉢をのぞいてゐる男兒二人、そこへ女兒が二人來た。そしての

ぢいてゐる中に男兒が龜をつまみ出した。龜は机上を匐出す。さあ面白い。積木を遊んでゐた四人も加はる。積木の上に龜をのせる。二本の積木に二つの龜をのせて競走をさせる。しかし龜は細い積木から落ちる。首を縮め込む。積木を橋にしてまた龜をのせて渡らせやうと發起する男兒がゐる。面白い。しかし龜は積木から落ちる。これは駄目である。今度は積木を机にたてかけて龜のすべり臺。龜は首を出してすべり落ち床上に落ちて首を大急に縮込む。面白い〳〵で大變な騒ぎ。今まで横でお風呂遊びをしてゐた女兒九人も集つて面白い〳〵。こゝにはからず男兒六人女兒九人の大團體で龜三匹と積木とでの面白い遊びが出來るといふ始末である。それも十分間とつゞかぬ。

（口繪、「お砂場」の子供は年長之組の林の組）

歐米に於ける學校給食の現狀（承前）

營養研究所技師　原　徹　一

前號梗概

一、緒言

二、英國に於ける學校給食

イ、概說　A、給食法規　B、給食兒童數並に給食に要する費用　C、食物給與所　D、食物の調理　E、給食時　F、休暇による影響　G、給食の榮養學的考察　H、兒童の選擇　I、教育上の効果

養を良くしなければならない。營養狀態を向上せしむるには學兒給食が必要である。學校給食の本來の目的を達するには學校醫をして共力せしめるにあらずんば効果も少なければ又冗費も多くなる。醫官が食物給與に携はれば必ず良結果を得る事が出來る。學校醫に檢査せしめて兒童中より榮養不良兒を選別し名簿を作り、之れ等不良兒童には常に醫官の監督の下に調理せる特殊の食物を與へて居る。醫官が選定せる榮養不良兒が給食に依りて榮養狀態が恢復すれば不良兒名簿より取り除く。而して再び不良に陷るが如き事あらば不良兒組に復歸せしめる。學校醫官のみにて判定し得ざる場合には醫務局の指揮を受ける。而して常に家

ロ、學校醫官ハーマー卿と語る

筆者は一九二七年春ロンドン市に學校醫官ウイリアム、ハーマー卿(Sir. William Harmer)を訪ねて英國に於ける學兒給食の狀態を問ふたのであつた。以下は同卑の筆者に語れるところである。

學問の向上進歩を促すには先づ最初に兒童の營

庭と聯絡を取り家庭に於ける食物を調査する。家庭に於ては含水炭素性食品が過多である。それ故學校では少くとも一回に二五瓦の蛋白質を與へねばならぬ。假令榮養不良兒に非ずとも、學校に於て適當な方法で給食が實施されゝば、夫れに依つて兒童の體格を著しく改良し得るのみならず、地方に於て長距離を通學する兒童にとりては洵に恩惠である。

シユロップシヤー州よりの報告に依るに『各兒童が家庭より携帶せる處の辨當につき、或學校に於て四十五人の兒童を調査するに、實に其の食品の九六%はパンとジヤム、マージヤリンであつて、之等の兒童は朝食、茶の時にも大體類似のものを攝る。此の不完全な食事では體の發育が非常に劣るのみならず、智育に影響する處も甚だ多い。それ故食品と發育に關し兒童の親達を教育する事が必要であると痛感する。

田舍では晝食に家庭に歸る事が出來ないから晝食を持參する。それが大部分パンのみである。それであるから兒童が持參するパンに吾人はビタミン、無機質蛋白質の良質のものを補足するために他の食品を與ふる事を希望する。

從つて此の目的のためには調理し易きもの養價の割に價格安きものを與へなければならぬので、コヽアミルク、骨髓、野菜スープなどが最も適當と考へられる。各學校によつて事情を異にし又は村の相違によつて補助者の多少其の寄附金額の多少の相違を生ずるなど、到底一州を一樣に取扱ふ事は出來ないから、各學校で各自適宜に行はしめる樣にしたい。親より徵金し得る者はする。然し强いてはならぬ。又寄附も募集する。或校の例を採ると兒童は一週一片を支拂つてコヽアミルクを三度貰ふ。此の一片ではコヽアミルクの費用の七五%しかない。

それで或る場合には金員のみならずコヽァ其他實物の寄附も喜んで受ける』と云ふ工合に地方は何れも給食を必要と認め其の實施を希望して居るが遺憾ながら實行せるものは少い。

ハ、ケント(Kent)

英國に於て最もよく學校給食を實行して居るのはケント州である。

學校内に賄所を設ける。其處で調理する献立は學校當局が充分調査する。兒童は何れも一回三片を支拂つて料理を受ける。此の場合同一家族より多數通學する際は割引をして貰ふ事が出來る。調理はパン、肉、馬鈴薯、豌豆などが主なるものである。一回の食事代が三片でそれが家庭で親が兒童に與へるものより經濟的であるのみならず榮養價も高いと云ふ事を一般に知らしめる樣に力めて居る。州の委員會は學校醫教師兒童出席掛などから、學校賄所と兒童の出席率身體並に智力の發育との關係に關する報告を徵して見た所、大抵の賄所は自ら維持する事が出來るのみならず、兒童の健康や發育に絶大なる好結果を來たして居るので非常に喜んでゐる。斯樣に一般に代金を徵集するがそれを支拂ふ事の出來ぬものに對しては免ずる事もある。卽ち委員會はダルトフッド(Dartfood)及クラッグフッド(Cragfood)の兩村に限つて無償にて食事を供給して居る。又他の賄所の有る村でも食事の無償支給を必要とする兒童には之を給與する。賄所の無い處では教師、又は校主がつとめて榮養不良の兒童に特別の手當をする。委員會も賄所を置く樣に力め學校當局もそれを希望して居るが、經濟上の關係で賄所が出來て居ない所も相當ある。無償給食や其の他より來たる不足高に對しては州、地主資本家慈善團體より補助をする。

一九二二年六月一日より一九二三年五月三十一日に至る一期年に於ける學校賄所の補助費用は二

八五六磅一三志六片にして、其の内無料給食のため補助せるものは一六九〇磅一八志七片で、殘りの一一六五磅一四志一一片は新設や臨時賄所の設備費永久賄所への補助奬勵金及び事業費である。此の費用は前年度の三三二六磅四志一片に比して四六五磅一〇志七片を減じた。

給與食事は延べ二七一六八〇人分にして、内一六一七五四人前は養育者より徵金し、殘り一〇九九二六人分は無料給與である。同年度一食分に對する食費は一・八片に過ぎなかつたが、前年度は二・〇五片を要した。然し之れに燃料、人件其の他の全費用を加算すると一食分が本年度三・四片で前年度が三・六片となつた。

初等學校に通學して居る兒童に過食を適當なる方法で給與すると云ふ事は、寔に重大なそして常に學校當局の頭を惱して居る問題である。家庭と學校とに相當の距離を有する村落地方に於ては特にそうである。然るに經濟逼迫のため此の重要なる賄所を新設するどころか、段々減少せしめねばならない今日にある事を甚だ遺憾として居る。

劒橋に於けるバッシングバーン學校(Bassingbourn School)で學校給食を試みた事があつた。校長のイーグレス(Eagress)夫妻は市長ナッツフォード(Kuntsford)の援助を得て此の試みをやつた。其の實行方法は一九二三年十一月二十六日より翌年一九二四年の二月一日までの九週間中四二日に亘つて延人員二〇八五の兒童(一日五〇人平均)に給食した。食費代價は一人一週一志二人一志六片三人二志と云ふ風に、同一家族より多數通學する場合には食費代を割引した。而して養育者が失業中の九名の兒童は無償とした。献立は日々二品料理で、學校内にて栽培せる野菜を用ひるのが一週二日乃至三日、野菜及プヂングは一週三日スープとプヂングが一週二日である。一人當り一週二志六

片で代價徴集額は一人平均一志七片である。之に要した費用は二二磅一〇志で、兒童の支拂ひたるもの一五磅一志四片、殘額は市長ナッツフォード子爵が支拂つた。此の試みに於て學園に育つた野菜などを用ひたと云ふ事は面白い事である。

ニ、ロンドンミルク療院

(Milk Clinics in London)

本院は一般の食物を與ふるものに非ずしてミルク、肝油などを與ふるを目的としたものであつて、米國の榮養級制度に類似したものである。本院に於ける虛弱及榮養不良兒童に對して牛乳又は肝油の給與は一九〇八年に初まる。ベスナルグリン(Bethnal green)に於ける或學校に於て榮養不良兒を研究せし時、學校醫は之等の榮養不良兒童には牛乳又は肝油を與ふべきである事を提案したこれなども給食に關する教育法令(Meal Act)の制定に一つの原因となつたのである。法規制定後はそれに從つて榮養不良兒に肝油牛乳の給與を行つた處が其の結果が著しくよかつたので、之が一つの流行となつて他の地方にも行はるゝに至つた。之れが本療院の設置を誘發したのである。處が肝油を法令に從つて食物として與ふる事が妥當であるか否やに就いて法律的立場から疑義を生じた。それで學務委員會は牛乳が用ひられる場合には學校醫は肝油を用ふべからざる事を命じた。又當時一般の意見として、虛弱兒童は晝食を與へられても食する事が出來ない、又食しても消化する事が出來ないから晝食給與の効顯は無い故、肝油などを與ふる事が適當と主張する向もあつたので、結局ロンドンに於ては診査の結果、特に學校醫が認定する者に限り肝油の給與を行ひ他には之を廢止した。

一九二四年五月三十一日の年度末の計算によると、ロンドン區役所がミルク療院を通じて學校兒

童に與へた牛乳食は延二六二九九七九人分、肝油食は三四三四八人分であつた。牛乳食の内七八八六六八人分は無償又は一部拂ひで貧困兒童に與へられ一八四一三一一人分は親より代價を徴收した。

ミルク給與期間が問題である。ロンドン市東端(East End)の或學校に於いてケーキン博士(Dr. Chaikin)が三七一八人の兒童につき實驗した結果によると、一三・八パセントは六ヶ月未滿二七・八パセントは六ヶ月乃至一二ヶ月三・一三パセントは一年乃至二年の間に健康體に復したが、殘りの一八・一パセントは二年を經るも健康體に復さなかつた。

學校に於て校醫が各兒童を檢し、牛乳又は肝油が必要と診斷せる場合は、其の兒童の身長體重及び其の他臨床上の注意事項を書き記したる牛乳券を發行する。教師は夫れに依りて牛乳をミルク療院に要求し、學校の保護委員會(Care Committee)は代金の支拂或は補助或は其の後の支持などを取扱ふ。三ヶ月後に校醫は學兒を檢査し結果を批評し其の評語を記錄す。學校に於て正常兒童が消化吸收する食品を虛弱兒童は消化利用する事が出來ぬ。それでこんな子供には牛乳や肝油を與へる。そして特に貧民部落の兒童の食物に缺け易い物はビタミンであるからそれを注意する。食物の榮養價は特に兒童保護委員會で檢査し、兒童の體重減退或は虛弱の原因に對して適當なるものと評定されたるもののみを用ふ。牛乳が有効であつて虛弱兒を學校にて取扱ふ場合に缺くべからざるものであると云ふ事は今や確實なる事實である。興味の爲に不規則的に學校でミルクを與へた十二歳の女兒五十名八歳の男兒五十名を採つて調べて見た。試驗前女兒の平均身長は一三六・八糎體重は二九・六瓩であつたが三ヶ月のミルク給與で身長一三

九・二糎體重三一・七瓩に增した。卽ち平均身長二・四パセント體重七・一パセントを增した。男兒は身長一二二・九糎體重二二・五七瓩であつたが一二五・五七五糎二四・一三瓩に增した。卽ち身長二・三パセント體重六・九パセントを增した。正常八歲兒童の一年の體重增加は八パセントである。單に不規則に與へた此の成績から見ても牛乳の効果は實に大なるものである。

ホ、其の團體給與並に結言

以上は英國に於ける學校給食の概略である。此の他個人的の給與や宗敎團體が未成年者に禁酒を誓はしめて給與するものなどもある。要するに英國の給食は貧民救濟と云ふ事を主とし貧民兒童の內榮養佳良ならざる者を牛乳又は肝油の給與によりて發育を助けると云ふ事を主として居る。朝晝夕の食事も献立によつて調理給與して居るがそれには榮養學の見地から遺憾な處がある。

三、佛國に於ける學校給食

イ、概說

フランスの學校給食は英國より歷史が古い。然して此のフランスの給食事業の起源とその精神はイギリスのに比較して見るに其の根本から異つてゐる。その精神はずつとデモクラチックでありその方法は經驗を主として居る。

此の給食事業の起源は他の國に於て見る如く、同じく最初は有志者の發起に係つたものである。

公立學校の組織の歷史を見るに、既に古くより凡ての兒童をして敎育を受けしめるに必要な學校基金（Caisses des écoles）が募集された。そして此の基金は最初は地方の居住者のみで支持して居たが、終に持ちされなくなつて其の幾分を公金より支出した。之等の基金は貧困兒童に着物食物書籍其の他の必要物を與ふる目的に費消せられた。

一八八〇年にはこの基金は何れの地方に於ても極めて重要なものとなり、居住民はすべて之に寄與せねばならないと云ふ樣な程度にまで進んだ。

此の基金運轉の主なる事業は食物の給與であつた。それであるから此の基金が需要量に充つれば給食が必ず學校賄所（Cantine scolaire）の形で實行された。續いて Cantine はパリは言ふに及ばず其の他の都市に廣く應用された。最近の報告によるとフランスでは一四〇〇の自治團體で一八七〇〇〇人の子供に給食してゐると云ふ事である。此の給食組織が發達するに從つて無償給與の率が增加した。一八八二年には給食量の三三パセントが無償で給與されたに過ぎなかつたが、一八九八年にはそれが六三パセントに增加した。そして此の年にはパリ市役所だけでも一〇一七〇〇〇フランの補助をなした。此の補助額はこれに留まらず將來益々增加すべき模樣なので此の補助に對し市は遂に爾後は百萬フランを限つて支出する事とした。

ロ、給食組織

佛國に於ける學校給食は地方學校基金委員會の援助を受けて行はれて居る。例へばパリ市に於ては二十區（Arrondissements）の各に學校基金委員會がある。此の委員會は賄委員會を任命し、その地方に於ける學校賄所を管理せしめる。此の任命された賄委員の外に學校基金寄附者の內より二十人乃至二十五人の委員を選擧して此の委員會に加へる。賄委員會は更に各賄所に支配人を任命しそれに食物の購入並に調理に關する一切の業務を司らしめる。

此の外市役所に中央委員會なるものを設け時折各區の各給食所を巡回監視し各所が互に聯絡を採り同樣の効績を擧げる事に注意する。

ハ、食事の品質

給食は普通は晝食を給する事になつて居る。然

し特に必要と認めた子供には學校授業開始時に溫きスープを與へる事もある。給食献立が兒童の發育又は恢復に適當なるや否やの判斷檢定は學校醫の責務となつて居る。上級生には、肉を毎日、下級生には一週二回與へられる。一人の兒童に與へられる肉の量は兒童個人性及び年齡によりて相異し大約四〇——六〇瓦間を上下して居る。大抵毎食にスープ、肉皿、野菜料理を給する。デザートは與へられる事が殆んど稀れで飲物は水以外のものは用ひない。

二、給食方法

佛國の給食法は他國の方法より勝つて居る。食事は彼等が最も合理的と考へる方法で取扱はれて居る。兒童給食に必要なる物質は充分供給されて居る。學校教師は此の給食を意義あるものにする樣責務を負はされて居る。それで學校では子供と共に食事を攝る。此の教師が兒童と共に食事をすると云ふ事は子供の食卓作法の習得などに良結果を來す事が多い。子供にはナプキン、ナイフ、フォーク、スプーンを與へ、食卓は常に清潔にしてある。それ故此給食は兒童の發育に貢献する處あるは云ふに及ばず又教育上にも良結果を來たして居る。

ホ、給食料金の徵集

料金は支拂ひ得るものよりは徵集し然らざるものよりは徵集せずして無償で給與する。全兒童の約三分の二は此無償給食組である。殘りの三分の一の兒童は食料を支拂はせられる。然し給食に必要な器具人件の費用は之れに含んで居ない。斯樣に多數の兒童に無償にて給與されるに拘はらず英國に行はれて居る樣に慈善行爲による事は全く無い。そして此の國では巧妙なる切符制度が行はれて居る。各兒童は室に入る時に小室に於て切符を受ける。其の時支拂ひ得る兒童は支拂ひ然らざる

ものは支拂はずして同樣切符を受け入室する事が出來る。支拂ひ得ざる兒童は其後其兒童保護者の經濟狀態を調査したる上支拂ひ得ざるものと認定されたる場合には引續き無償にて給食せしめる。

へ、經濟狀態

給食資金は學校基金の外一般の寄附よりなつて居る。然し事實に於ては此の寄附金は極めて少額であつて全額の二パセントに相當するに過ぎない。生徒よりの徵集金額も食費を支拂ひ得る兒童が三分の一に過ぎない。然もそれが食費だけしか支拂はないのであるから之れも少額である。それ故パリ市に於ては戰前四〇萬圓に相當する金額を此の目的に支出して居る。卽ち給食基金の三分の二以上が市民の徵稅によつて支出されて居る事となる。こんな狀態にあるから一層の事兒童よりも徵集せず又寄附も受けず、全部市費を用ひて給食した方がよいと云ふ說さへある程である。現今は此の說は益々盛んとなつて兒童給食は社會の事業として市民の責務であるとさへ云はれて居る。

四、其他の歐洲各國

前述せる如く、歐洲に於ける學校給食の歷史は佛國に起り、佛英兩國に於て發達せるものである。其の他の各國卽ち獨逸、墺國、オランダ、ベルギー、スイス、イタリー、ノールウェー、スエデン等も此の兩國に從ひ大體類似の方法を用ひて實行開始したのであつたが著しき發達を見なかつた。そしてロシヤとスペインは戰前に始めて開始したに過ぎなかつた。處が歐洲大戰による封鎖によりオランダ、ベルギーは著しく食物の缺乏を來たし國民は何れも非常なる飢餓に襲はれた。當時一鑛山技師として歐洲巡遊の途難を大陸より英國に避けて居つた現米國大統領フーヴハー氏は、前兩國の食糧危難を救濟せん事を決意し、萬難を排して

遂に其の目的を達するを得た、此貢献は歐洲人のみならず米人の認むる處となり、之が基因となりて同氏は終に今日の榮位を贏ち得るに至つたのである。此時フーヴハー氏は中立國のみならず敗戰後の獨逸墺國にまで此の救濟の手を延ばし、一般國民を救ふと共に貧民兒童の學校給食をも開始した。之に力を得たる獨墺兩國は以來此貧民救濟の目的を以て學校給食に鋭意努力を致し、爲に俄然一大發達を來たした。然して特に獨逸の如きは今日他國に決して見る能はざる程な熱心さを以て此の事業の完成に進んで居る。斷片的であるが獨逸並に墺國に於ける此の問題の現狀の大略を左に述べて見る事とする。

五、墺太利に於ける學校給食

墺國は戰後著しく土地を局限せられ、而も其の土地の多くは山林部であるから、耕地は甚だ少ない。從つて收穫する處の食糧品は甚だ少く需要の多くは外國よりの輸入に俟つの狀態に在る。大戰直後は需要高の實に七割五分を輸入したのであつた。同國は年々一〇億シリングの輸入超過をして居るのであるが丁度それは食糧品の輸入量である。卽ち三億シリングの穀物、ポーランドよりの肉類及其の製品を初め、其の他諸外國からの一般食品が七億シリング合計一〇億シリングである。其の他耕地の整理開墾を行ふて耕地の增加を圖つた。土地は戰前より一人當の面積が減じたので現今は一人當一・二ヘクトルになつたが、それでもスイスの一人當〇・八ヘクトルに比すると多いのが幸ひだ。此の土地に政府は馬鈴薯の栽培を奬勵した。其の効顯れて大戰直後三割位不足した馬鈴薯は今日では逆に三割を輸出し得る程度に進んだ。小麥裸麥をも政府は資金を補助して增產を奬勵した甲斐ありて裸麥は一割位增加した。又山間部に

牧場を拓き牧畜も奬勵して居る。斯くして着々進境を見せて居るからとて同國の將來を樂觀するものもあるが、多くは獨逸と合併せざればなどゝ悲觀說を持つて居る。斯かる狀態に在るから從つて貧民が多い。元來墺國は風儀甚だ宜しからず私生兒の百分率の高さは世界一であつた。卽ち戰前に於ては私生兒は出生兒中一三%あつたと云ふ。戰後墺國の主體となつたケルテ、スタイマークの兩州は特に風儀惡しき處であるから私生兒の百分率は更に著しく增加した模樣である。或る州の一村につき之を見るに三〇%と云ふ樣な多數を示して居ると云ふ。十五より五十歲までの未婚女子の實に半數は私生兒を生むと云ふ樣な驚くべき狀態である。之には風敎上の理由ばかりでなく他にも種々なる事由ある事ならんが例の結婚慣習などが主なる理由だと思はれる。こんな狀態であるからして國には社會省(Ministerium für Verwaltung)を置き貧民兒童や私生兒の世話を始めとし勞働者の世話などもして居る。

勞働者のみならず一般國民に健康保險を行ひ又同一職業者には必ず組合を作らしめて自治を行はしめて居る。又社會省、市、慈善團體若しくは會社なども其の經營する公衆食堂(Volksküche)などによつて安價な食品を提供して居る。余は滯墺二日の一日を割きウイン市長サイト(Seitz)氏を訪ひ其の紹介にて市立社會局の貧民救濟を擔當するタンドラー博士(Dr. Tandler)及ベーム博士(Dr. Böhm)を訪れた。ウイン市には當時(一九二六、十月)二七の公衆食堂があり、一般國民に調理せる食品を供給するばかりでなく、六十七個の學校に食品を送り小兒に給食せしめて居た。學校にては貧民兒童、榮養不良兒童などの區別を措かず一般に一樣に食物を與へる。其の資金は歐洲食品管理者とまで謂はれた米國フーヴハー氏の寄附金を主

體とし國民より徴收する遊興税の一部及寄附金に更に生徒より徴收する食費代である。生徒より徴金すれば別に基金を要せざる樣に考へられるが實は生徒よりの徴金は一般的でない。貧富の程度に應じて生徒を(一)全額を出金し得るもの、(二)半額を出金し得るもの、(三)四分一額を出金し得るもの、(四)全然出金し得ざるものゝ四種に分けて徴金するのである。余がタンドラー氏の秘書シャウフラー博士(Dr. Schauflor)の案内にて實地參觀の爲行つた小學校(Allgemeine Volksschule)では丁度晝飯時で充分よく見る事が出來た。丁度マルビネ、メコビック夫人(Frau Maria Malvine Mekovic)が擔當して居る學級を見た。同夫人の話に依ると一週間分の献立を最初に作り夫れに依つて調理した食品が公衆食堂より晝飯時に運ばれて來る。子供には一週間分(日曜日を除く)の食費を豫め徴收して食券を與へ其の食券と引き換へに食物を分配する。余が訪問した時は馬鈴薯に挽き肉を混合し粥狀にしたものであつたがそれを兒童各自が銘々に持ち來たる容器に目分量で入れてやる。子供の食慾を多少斟酌して居るらしい。子供は貧民兒童を偲ばせるに充分な色々な容器を持つて來る。アルミニュームの鍋を持つて來るものもあればコップや皿を持つて來るものもある。中には瓶をさへ持つて來るものがある。これでは毎日お粥ばかり頂戴して居るなとうなづける。此の外一切のパンを與へる。貧富の兒童數の割合を聞いて見るに一級一四八人の兒童の内

全額を支拂ふもの	四人
二分一を支拂ふもの	二〇人
四分一を支拂ふもの	四三人
全然拂ひ得ざるもの	八一人

此表を見れば給食に基金を要する事がわかる。此の費用を補助する爲に國内に於けるホテル、

レストランより遊興税を徴する。遊興税と云つても日本のものと多少異つて居る。ホテルに泊ると外人にはホテル仕拂の二割内地人には一割に相當する金を税金として取る。之が給食其他の社會事業に用ひられる。此の種の税金はスエーデン、ノルエー、デンマークなどの國々に於ても取り立てる。チップと間違へてチップをやらないで居るとボーイからチップを要求されることがある。

學校のみならず學齢前の子供は幼稚園(Kinder garten)——日本のものと多少相違す——などでやつて居る。

給食献立の一例を示して見やう。

毎日	ミルクカヽオ	十分の三立
月曜日	碎米入りスープ	十分の二立
	ミルクパン	一二デカグラム
火曜日	肉入スープ	十分の二立
	スポンジケーク	七デカグラム
水曜日	バラダイス馬鈴薯	十分の二立
	(馬鈴薯を粥狀にしたるもの)	
	杏入りソーセージ	七デカグラム
木曜日	油煠馬鈴薯	十分の三立
	ビスケット	九デカグラム
金曜日	茹で豆	十分の三立
	燻肉	一一デカグラム
土曜日	肉入米スープ	十分の三立
	パン	七デカグラム

其の他大同小異である。此の献立はウィン大學生理學教室にて完全なものと保證せるものの由であるが、實際給食せる實地を視察するにあながちさうばかりでは無い樣である。

要するに墺國の給食方法は組織的であつて、獨逸に比較して見るに大同小異ではあるが、榮養に稍々重きを置いて居るだけ勝つて居る樣である。

(つゞく)

鳥の生活と巣箱

哲化人

小鳥と云ふ子供にとつて大きな注意の對象物を觀察させる方法は色々とありませう。

よく、一般の家庭で飼つておられる小鳥類、例へば「十姉妹」、「カナリヤ」、『セキセイインコ」、「紅雀」、等を籠に入れて飼ひ、子供達にその餌を啄む樣子、巣を營む有樣、母鳥が雛を如何にして育てるか等を觀察させ、又親しくその餌や水や菜等を入れさせて小鳥に親しませるのも、いい一つの方法でありませう。飼鳥は姿も色も美しく、又その聲もいいものですから、子供達にとつては、仲々價値のあるものに相違ありません。

又、いい方法もあります。成程美しい飼鳥と親しむのは結構でせうが、拘束された籠の中の生活、金網の中の不自然な――いや飼鳥にはもうそれが自然になつてはゐるのでせうが――樣子を觀察するより、解放された自由の天地に生活する小鳥の生活を觀察することは更に結構な事でせう。唯雀が飛んでゐる、小鳥がさへずつてゐると云ふ事より一歩小鳥の生活へつき進んだ觀察も出來ませう。これの材料とても得るに難くないと思ひます。春、ひばりが麥畑にさへずるのも郊外に出たら見られませうし、今頃のやうに燕が渡つて來て家の軒等に巣を營み、更に雛が生れてからはその黄色い嘴で親鳥に餌を求めて鳴く有樣等も都會地

でも觀察出來ませう。雀等の巣も發見され、その生活振りを見る機會もありませうし、更に郊外、田舍の方でしたら種々の小鳥や鳥が巣を營む有樣も觀察することが出來ませう。唯この方法は、前の飼鳥より鳥に親しく接近することが出來難いうらみがあります。しかしほんとうに自然に生活する鳥を觀ることは、仲々價値のあることと思ひます。

更にここで述べやうとする方法は、鳥類の自然の生活を、親しく近づいて觀ることが出來、鳥の自然の生活に立ち入つて、自然の小鳥と子供とが一緒に仲よくすることの出來る方法です。それは最近段々と盛になつて來てゐる巣箱(Nesting Box)をたててやるのです。

これは、そもそもの起りは獨逸のベルレプシュ博士と云ふ鳥類學者が考へ始めて、自分で試みたのが最初であるさうですが、目的は有益な鳥類を保護してやるのが第一なのです。鳥類も人生にとつて種々な意義を有してゐることは申す迄もありませんが、大體述べて見ますと、田畑の作物を荒す人生に害ある鳥がおります。主として植物性のものを食餌とします。それに對して動物性の食餌をとるもの、卽ち昆虫、獸類等を捕食するものがあります。この食肉性のものは害虫や害のある獸類を驅除するので農業を益するものでありますが、都合のいいことには害鳥たる植物性食餌をとるものは肉が美味なため、狩獵鳥が多いのです。自然と害のあるものを捕へるやうになつてゐます。一方、益鳥の保護は法律によつて定めた期間の捕獲を禁じるとか、宗教的、迷信的な言ひ傳へより土地土地によつて保護するとか、色々の方法が行はれてゐるやうです。その保護の一施設として、農業に益するやうに案出されたのがこの巣箱ではあるのですが、これは同時に鳥を愛する心、

鳥と仲よくなる氣持がなくては出來ない事ですし、又その氣持を醸成させる方法であり、幼稚園等で試みられるに至極面白いと思ひます。

自然に生活してゐる鳥を如何にして保護してやるかと云ふ方法は色々とありませうが、大體、鳥に棲息地を與へる方法、鳥に食餌を與へる方法とに區別してお話致しませう。

鳥類の食餌の缺亡する時季は冬季であります。殊に寒國で雪の積つてゐる土地等では甚だしく缺亡し、往々にして餓死すると云ふ事です。そのために雪國では給餌の必要があります、その方法は種々ありますし、種々の給餌器も考案されてゐますが、最も簡單なのは降雪によつて、鳥類の餌の雪に埋れて、自然のまゝでは餌に窮する時、降雪を除いて地表をむき出してやりその上に餌を散布してやる方法です。その外林の木々の枝に餌入れを吊してやつたり、幹の洞や窪みに餌を入れてやる方法もあります。その外、もつと大掛りのには特別に小屋を立ててやり屋根で雪が降つても雪で埋らぬ小さい地面をつくり、その下に餌入れを置いてやりますと、屋根は又冬季の巣ともなります。餌の種類は穀物等も結構ですが、冬季は脂肪の要求の多い時ですし、肉食のものが目的ですから、脂肪を與へることは大切です。大きな肪肉を木の枝に縛り付けただけでも結構です。唯、肉がひきづり出されないやうに嚴重に結び付けて置く必要はあります。又簡單な給餌箱をつくるのもいいと思ひます。この箱の作り方等は後に巣箱と一緒に述べませう。

その外夏季には、餌には窮さなくとも水に困る事が多いのです。よく日照りつゞきで小鳥の斃死することがありますが、小鳥には水は重要な役目をします。唯水をのむのみならず、水浴と云ふことは生活に缺かすことの出來ない事なのです。飼

つてある小鳥が水入れの中で、又は雀等が雨後の水溜りの中で行水をつかつてゐる所は幼兒のよく注意する光景ですが、その水を給する設備も種々考案されてゐます。しかしコンクリートで小さい池を作るなぞは大變ですから桶でも鉢でもに水を入れて小鳥のよく遊ぶ所に置いてやればそれでも結構です。要するに水溜りを造つてやればよいのですが、場所が問題です。前の給餌の場所も同樣ですが小鳥が餌をとつてゐる間、又は水浴してゐる間に害敵の襲擊を受けるやうな場所ではいけません。卽ち藪等があつて小鳥の見透しの利かぬ場所等は禁物です。外敵としては、蛇、猫、いたち等がありますが此等に對して相當の考慮を要します。つまり小鳥が平然と自由に餌を食べ水の飲める場所がいいのです。平常よく小鳥の遊んでゐる場所を考へて設置してやれば大抵成功してゐます。

次に巢箱ですが、これは鳥類のうち樹の幹の洞とか根の空洞等に巢をつくるもののために作られるものでその外の露出した巢を營む鳥類には別の方法があります。

要するに巢箱は鳥が安住するに足ればいいわけですが、その大いさ、設置の場所を誤る時は、鳥類によつて利用されないでしまふことがあります。

巢箱も目的にさへ適へば、その形狀等は各自獨創的の考案が出來ますから、幼兒にある程度まで創案させて、それを補助するやうにしたら面白いものが出來はしないでせうか。しかし必ず備へなければならぬ條件がありますから、それを述べて、作り方の例を多少述べて見ませう。

第一に必要なのは箱の大いさ、穴の大いさ等です。ある大きさの鳥はそれに適當した大いさの穴を備へてゐる巢箱にしか營巢しません。從つて、

巣箱の大いさを適當にすることによつてその鳥の種類を限定することが出來ます。次に大體鳥の大いさと巣箱の大いさとの關係を記してみます。

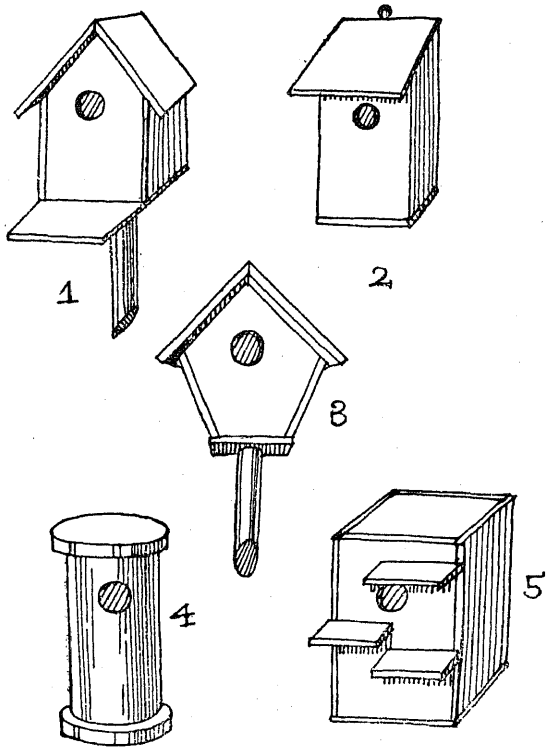
（生物學叢書内田氏著鳥獸保護による。）

鳥の種類	巣箱の底の大きさ	巣箱の高さ	底から巣穴の中心までの高さ	巣穴の直徑
「おほるり」大の鳥	一三・五×一三・五	二〇	一五	三・八
「しじふから」大の鳥	一〇×一〇	二〇—二五	一五—二〇	二・八
「みそさざい」大の鳥	一〇×一〇	一五—二〇	一五—一五	二・〇
「すずめ」大の鳥	一三×一三	二四—二〇	一五—二〇	三・〇
「むくどり」大の鳥	一五×一五	四〇—四五	三五—四〇	五・〇
「あをげら」大の鳥	一七・五×一七・五	四〇—四五	三五—四五	六・〇
「ふくろふ」大の鳥	二五×四五	三七—四五	一〇	一五・〇
「このりたか」大の鳥	二〇×二〇	二七・五—三七・五	二七—二〇	七・五
「をしどり」	二五×四五	二五—三七・五	七・五	一五・〇

單位はすべて糎

次に必要なことは、設置の場所と時季ですが之は後にまとめて述べるとして、いよいよ、その大きさで造るとして材料は如何なるものでいいかと云ふことです。材料はなるべく廢物利用をおすすめしたいと思ひます、色々な意味で廢物利用が望ましいのです。有り合せの蜜柑箱を改造しても出來ますし、小さい樽、桶の類でも穴をあければいいのですし、空罐、竹の一節等でも作れます。新しい材料でするのなら丸太か六分板がいいと思ひます。それも丸太も皮付きのまゝなら一層よろしく、板も皮付きのままのものの方が雅趣あつて結構です。木は一概に新しいものより古くなつて木の香の失せたやうなものの方がよろしい。手の入つてない、そして古いものゝ方がいゝのですから、廢物を用ひられゝば一番いゝわけです。六分板の代りに四分板でもよろしく、板はすべて鉋のかゝらぬざらざらの方がいゝのです。

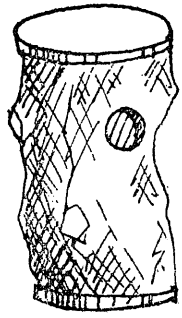
その材料を用ひてどう云ふ型に作るかは、寸法だけが定まつた通りにせねばならないが、全く自由で獨創的なものを造り得るのです。小鳥のお家

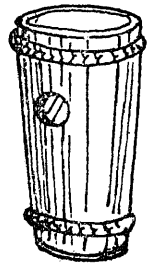


第一圖（巣箱の實例）

如何ですか、參考までに拙作二三を添へました。（第一圖參照）5は蜜柑箱を二つに切つて造つたものです、4は丸太を利用したもので、丸太を縦に二つに割り、中からノミでえぐつて中空にしたものゝ一方へ巣穴を明けて、合せてから屋根と底に圓盤狀の板をうち付けたものです、多少造り難いと思ひます。3・2・1はいづれも容易でせう、六分板の一尺巾のものが四尺位あつたらば雀大の巣箱でしたら二つ出來ます。例へ板を買つたとしても、二三十錢で二個作れますし、廢物の板屑や、箱等を利用されて各自考察されたなら面いものが出來ませを如何に設計するか、これはある程度の助力が必要かも知れませんが、幼兒にプランを作らせてはう。日本鳥學會（東京帝大理學部動物學教室内）からも、庭等に置く結構な巣箱が發賣されてゐま

右　樽を利用した巣箱
左　材木の幹で作った巣箱



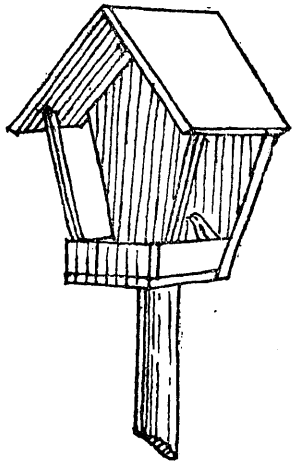


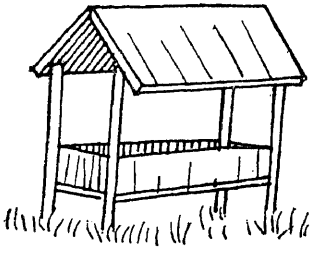
第二圖

すが、自分で造るのならその箱を造ることだけでも面白い事でせう。

巣箱が出來たら序に給餌箱も作ってやりたいです。大體屋根でも作ってその下に入れものを置けばいゝのですが、第三圖のやうなものも面白いでせう。これも廢物利用で作られたので結構です。鳥のよく飛んで來さうな所へ、穀物でも入れてやって立てゝおくと小鳥が時々啄みに來ます。

さて製作が終ったら設置ですがこの場所は充分考慮を要します。害敵に對し安全なることは餘程注意しなくてはなりません。それがため立木に直接に取付けるより別に丸太なり木なりを立て、それに付けるやうにした方が安全です。蛇の害、都會地では猫の害が氣を付けなくてはなりません。巣孔の方向は割合と風のよく吹く方向を避けた方





第三圖　給餌箱

がいゝやうです。日光の強く射し込む方向も好ましくありません。高さはその附近の地勢や鳥の種類で色々と適當な高さがありますが一間から二間位の間です。從つて立木に取り付けた方が、長い柱を立てるよりも便利ですから害敵のことを考へてやつて立木に取付けることになつてしまひます。

取付けの時季は秋の終りが一番よい時季です。冬になると巣を營む場所を探してゐますからその時季に設置してやれば翌春の産卵蕃殖の時季にその巣箱で雛を育てます。ですから今頃から造つて置かれて、箱の木を充分枯して置いて、秋になつて設置されると、冬になつて鳥が入り春の雛の育つ有樣がよく觀察出來ると云ふわけです。しかし設置したからとてさうすぐには入るものではありません。

この巣箱は目的は洞に營巣する鳥に巣を與へてやるのですが、露出して營巣する鳥の保護のためには、森林の樹木を適當に剪定して、之に巣をかけやすいやうな枝を出してやるのです。卽ち幹の一個所から一せいに枝が出て、鳥の巣のやうになるやうにしてやるのです。保護の目的には有効の方法ですが、一寸やつて見るのが難しいですから簡單にしておきます。

巣箱を自分で製作し、それを思ひ思ひの場所に取付けて、しばらくして巣を營んだ小鳥を見るときは子供達は自然と小鳥に益々親しむことでせう。小鳥と見れば空氣銃を持ち出して來たり、パチンコでねらつたり、石で落したりする子供もよく見懸けるやうですが、それが今度は餌をやり水をやつて營巣の有樣を見、又親が雛を如何にして育てるかの有樣を見たら、何か大きな變化が子供の氣持に起りはしないでせうか。

既に外國では、小學校に於て盛に愛鳥の精神を

尊重して、鳥の日（バード・デー）を設け、兒童に巣箱を製作させそれを設置して鳥と親しませる事が盛に行はれ、又吾國でも小學校で段々と巣箱製作をやらせて、鳥と親しませる事が行はれ出したやうです。

幼稚園の庭に小鳥を呼んで幼兒にその生活を觀察をさせる方法として、その製作が既に獨創的であり、その小鳥との接觸が更に意義あるものならば、巣箱の設置は何と愉快な結果をもたらすものではありませんか。都會地の幼稚園では、種類の變つた鳥は巣箱に來得ない事はありますが、雀でも結構です。雀などを保護するのは巣箱本來の目的に背いてゐるかも知れませんが、こゝにおすゝめする巣箱の第二次的な目的を考へれば構まはないわけでせう。比較的多勢集合する機會の多い學校、幼稚園に安靜な小鳥の棲家を置くには多少の考案が必要でせう。しかし、その設置の場所に適當の所を得たならば必ず巣を營むやうになりませう。

又、たとへ巣は營み難くても、給餌器には必ず、いつでも鳥は止つてゐます。自然の小鳥に餌をやる、水をやると云ふだけでも子供にとつて愉快なことでせう。ですから給餌箱は巣箱と同時に必ず置いてみて下されば、たとへ巣箱へ入る時期が後れても、餌を啄む所で興ずる事は出來ませう。

既に試みられて、いい成績を擧げられておられる所もありませうが、たとへ環境が都會地でも是非一度試みられんことをお奬め致します。（完）

御不審の點あれば、及ばず乍らお答へ致します。編輯部へ御照會下さい。

× × × × × ×

童話を幼兒に話す準備的過程

小野　直

童話をよくか聞せるのには、幼稚園は仲々骨が折れるといふ事を、一般の童話を實演する人も老大家すらもいつてゐるのを今迄に聞いてゐます。

そして、若し園兒に童話をあかせずに聞かせる事が出來たならば、此の人の技倆は相當なものであるといひ得るとも、その人々はいつてゐました。それほどに幼稚園でお話をする事が困難だとされてゐます。あまり花々しくもなく、骨折でもありますために、幼稚園向の童話の良書も實に僅少なものであります。それで、毎日、幼稚園で、談話の時間を擔當してゐる方々がする骨折は嘸かしだと考へられます。老大家が幼稚園でお話をすることがむづかしいといつたのには色々な條件があると思ひます。即ち、物語としての資格を保つて、而も大人がよろこびさうな迄の筋のある、整つた一つの童話を、割合に長い時間の間、しづかに聞かせやうとした時の苦勞のある事をいつたのでせう。さうでないにしても幼稚園の話はたやすくはありません。十分間と注意がまとまらない幼兒には、それ以上のお話ではよほどうまく話すか、よほど變化のあるお話でないと失敗に終ることがよくあります。事實、私共が話をして二十分から三十分の長い時間を要する時には、間斷なしに、園兒の注意の散らないやうにと氣を配りま

す。そのやうな無駄な方に骨を折つてつく〳〵話の材料の撰擇の粗漏であつた事に氣がつくことがよくあります。

子供は、元來お話が好きなのです。面白ければ幾らでも聞きます。疲れて一時は騷いで居ても、又、氣分が回復すると靜かに聞きはじめます。子供は　他人にお構ひなしに休憩時間を自分でとるのです、そればかりでなく隣近所をすつかりその狀態にします、それかといつて又氣が向いて來ると自分一人ででもお話に聞き入つて先から先をもとめる程の熱心があります。

此の園兒たちがあきの來ない時間内で面白く、心持よくお話を聞かせる事を、是非とも考へて見なければなりません。

◇

先づ、ここに何冊かの童話集があつて、園兒に話して聞かせる材料を選定する爲に、あれこれと讀みあさつて、一つの氣に入つた話を見出したとします。この話を園兒に聞かせる迄に、如何なる準備的の過程をとつて行くべきかといふことについて考へたいと思ひます。

〔一〕　通讀中の感じと一讀後の感じ

童話をよみはじめてから、一通り讀んで終ふまでの間に、私共は、樣々な感じを起します。例へば、此筋は或る童話に似てゐるとか、此のさまは斯うなるだらうとか、このあたりはよい感じだとか、此處らは子供に理解が難しからうとか、此表現が拙いとか、冗漫だとか、大人が讀むのだつたら面白い話だとか、是非とも子供に話して聞かせたいとか、この一段は實に面白かつた息もつかせぬまでの巧な表現だとか、まだ〳〵あるでせうが、その樣な感じを起し乍ら通讀をします。その話を一通り讀んだ後に、全體から見ての感じを起します、それが、前に列擧しましたやうな感じを

依然持續する事がありますし、又、異つた感じを起す事もあります。例へば、面白い作らも全體から見て、その面白さが、さまで生きて來ない樣な感じもあります。

今、私は、讀後の感として「園兒に話してやりたい」と思つたその話を如何に吟味すべきかを見るのです。

〔二〕 其の筋の回想

單に自分自身が好きだからといふ理由で話を園兒にして聞かせやうといふ事は、少し無理があります。自分が充分に園兒の心を思ひめぐらして、極端にいへば、自分の心のある部分を園兒になし果てて、そのところから自分が好きだと感じた話をするのならば、自分が好きだからするといつてもよい。が、自分は大人であり、聞かせやうとする對手は、自分とは親子程の隔りがあり、生活の天地、思想の狀態雲泥の違ひがあるのですから、園兒の心を以つて自分の心とするのでなければ、選んだ話が失敗を生む事は多いと思ひます。園兒に適する中心生命をもつた話に對しては、まづ面白いと感じる所、大事だと思はれるところとに、意を注いで、今一度、その話の筋が確かに面白いかと檢べて見なければなりません、この時に、だん〳〵と、園兒に話して見やうといふ心持が薄らいで行く樣であつたら、この話は、よほど改めなければ、私自身の話すべき話にはなりません。

園兒に聞かせるお話を一概にいへば、筋が單純で、無理がなくつて立派に達する、明るい氣分の話であることが大事な事であります。

〔三〕 分析と綜合。省略と改添。

次に、すべき事は、話の始めから、一句一句、靜かに丁寧に、吟味して行く事です。この言葉はお爺さんがお婆さんに。これはお婆さんがひとりでいつてゐる事。これは作者が事件を見ての表

現。これはお爺さんのいふべきところを作者がいつてゐる。といふ風に一つ一つ落ちなく考へて、其の間に面白いと思つたところ、中心だと思つたところを細々と分析して情景を考へて見、私の考へで組立てた時にも面白さが前の樣に出るか、中心が分析する前と同じ樣に感じられるかを吟味して見ることであります。又、此話に話の山と話の谷がいくつあるか見る事であります。この骨折をしなければ人の作つたお話が私の自由に扱ひ得るお話にはならないのです。それでかやうにする事で、私共がその作者の心に近づいて行く事が出來るのです。近づいて行くといふ事は、そのお話を原作の氣分を傷けずに話せるやうになつて行くといふ事です。原作の味を破壞しないやうにするといふ心掛は、お話をする人が作品に對して、敬虔な態度である事を表はすのであります。

幼兒にその話が適するか否かを察知する一方法として私共は子供等がお話をきいてゐる時の顏や姿を想像するのが何より便利です。子供等にこの話を聞かせたらどんな顏をするだらうか。どのあたりで飽きるであらうかと想像して見ることです。

話が複雜だつたなら、簡單にするために、ある部分を取り除いたり、幾つかある話の山を割愛したりするのは、教育者として、又、實演者として園兒のために當然すべき手加減であります。換言しますと、最後まで大きな力を持つてゐる、筋の取捨鹽梅がここでされるのであります。

〔四〕讀むために書いた話を、話すためのの話に改造する勞作。

用語のむづかしいものを、子供の理解する語に改める事。私共が子供に聞かせる話を選定するために、童話集を讀む時に、既に、その幼兒に難澁な語句は、飜譯をして行くのでありますが、こと

で更らに明瞭に調べて見るべきです。それから、地名にも、固有名詞にも、時代にも、園兒はあまり執着をもつてゐませんし、大して有効なものではありません。却つて話す方に邪魔になる事があります故に、その扱ひに困る時は、思ひきつて、ある時、ある所の、あるお百姓（おぢさん）に改めた方がよいと思ひます。場面の交錯してゐるものも簡單にしなければなりません。さて、讀む爲に書いた話を話される樣に組立てた話に變る手段を述べなければなりません。話す話と讀む話との違ひをざつと申し上げたいのです。ここにお話として表現したい事件を創造したとします。その叙述順序も略定つたとします。そこで其の事件を一人は文字であらはさうとします。そして古今、東西の如何なる寶物や、怪物でも、如何なる事件でも、もつて來て事件をあらはします。高い聲、低い聲、太い聲、細い聲、聲の音色、言葉の遲速、間（ポーズ）の開け方などで表現して行くと一しよに、言葉の足りないところや、言葉であらはせないところを身振や、顏の表情であらはします。この二通りにあらはされた二つの話について考へて見ると、書いた方の話は、何時でも、思ふ時に讀むこと出來ます。望む時に繰返してその表現を味ふことが出來ます。話す話は、その話した時に聞かなかつたならあとで今一度その通りには繰返すことが出來ません。その瞬間〳〵に消えて行きます。しかし、文字で書いたのを讀むより樂な上に、直觀的な實感を受ける事が出來ます。

書いた話は、同時に起つたことを、次々に書いて行つて、それで同時に起つた事柄の感じに起させなければなりません。遠近、廣がり、音の高い低いは、實に筆一筋での表現では非常な骨折があります。しかも、充分とはまゐりません。しかし、この話は、紙の上にのこつてゐますので、命の長

い點でこれは永久であります。

これを、物にたとふれば、書いたお話は、繪にかいた庭であり、聞く見るお話は、木があり、水があり、魚の浮んでゐる池がめり、石がある庭園を目のあたり見る樣であります。子供に分る點から申しますと、書いた話は讀む力がなければ話を理解する事は出來ません。今、これをそのまゝ讀んできかせるとすれば、幼兒は未熟な耳と少い經驗とをもとにして、たゞ、耳ばかりをたよりにして聞く事になります。もし、話して聞かせるやうに出來た話ですと、目で見、耳で聞く兩つの助けを借りて、よりよく話を理解することが出來るここに氣分もわいて來るわけです。よむやうに書いた話を、私共が話すために、次の樣な仕事をする必要があります。

(一)、話す時には身振に對する說明にあたることば(例、上を仰いで、あちらをむいて……)を省くこと。これは書く話としては必要なのです。

(二)、音の性質や、擬聲であらはし得るところも身振聲にかへること(例へば、大きい聲でいひました。それは〳〵小さい聲で……。あはてて鳴きました。震へた聲で……)

(三)、必要だと思ふ、間(ことばとことばとの間のへだたり)を充分加減すること。

(四)、「と、いひました。」「と、うたひました。」も出來る丈省いて、實在その本人がうたつて居ると考へることにします。

(五)、必要だと思ふ、繰返しを適當につけます。

(六)、面白いところを生かす爲に、そこが徹底する樣にし、中心點は、注意深く耳と目から充分に話を徹底して理解させ、よく表現する樣にします。

(七)、中心點や、面白いところで其の眞價を發輝させやうとするには、それを助けるやうな話の

筋を運ばせる叙述の部分はさらりとすゝめて行つて、無駄なことをいつて子供を疲らせない事です。はじめから、詳しく〳〵表現しやうとしない事です。この失敗は、話す事に馴れて來た頃の人のよく陷ることなのです。

斯樣に話す話に直すことの注意は、別に、譬へますと、三色版の繪をつくる時の樣であります。赤色の版、青色の版、黃色の版をつくつて、だん〳〵刷り重ねて行つて原色が出るのと同じ樣です。書いた話から、身振りであらはせるもの、聲の高低、强弱、音色であらはせるもの。作者自身がいふところを登場人物にいはせられるところ、どれだけを又話す人がいふべきかと、別々に考へて、それをまとめて、話の全體の感じを思ひ廻らして見ます。

このあたりの過程の努力が一番大事な働きです。身振りは、自然に近い、大事な身振りだけにして、いらない事ははぶいて、まづ上品に扱ふ事を忘れてはなりません。

五、同　想

さて、一度、組立の出來た話をはじめから繰返して考へて見ます。そして、(一)原作の中心點が明らかに生きてゐるか如何か。(二)話が面白くなつたか如何か。(三)話としての體裁はどうか、子供が聞いてしまつて滿足する結びになつてゐるかどうか。(四)お話が上品に藝術的に運ばれてゐるかどうか。(五)ことばがわかりやすくなつて、訛言や、方言は注意して除いてあるかどうか。

さうして、ここにでも前々に述べました、分析や、綜合や、改添や、省略などが繰返されるのです。

六、實演、試演。

これまでに一段落がつきましたので、ここで、子供にでも、大人にでも、一度こころみに話して

見ることが必要であります。若し、私共が、自分の考へてゐることを話して見ますと、自分の思つてゐることがきまりますし、自分の話す方法が、目的と違つてゐたことなどがよく分ります。分つたら、それを改めるのです。かやうにして、おさ〳〵怠りない準備をして園兒(幼兒)の前に出るとしたなら、私共は、その努力の効果の如何を體驗したさにその時の來る事を待切れなく思ふでせう。

七、いよ〳〵話す事。

いよ〳〵、話して見て、その話の効果のあるなし、努力のしどころがよかつたかわるかつたかが分ります。話がこれまでになりましてからは話す話として大成させるのには、あまり幾多の過程はありません。若し、これだけの努力をして話す方があつたなら、漫然とよんで話し、又、只題目ばかり見て子供に讀んできかせてゐた頃に比して、その失敗は大半以上を減じ、又從前より數等よい効果の話をする事と思ひます。

以上の事は、私自身が、今迄に通つて來た道、今でも辿つてゐることを反省して書とめたものです。同志の人への、助言として、若少の人に試みよといつてゐる事なのであります。これが御參考になれば幸です。

最後に、一、二を申し添へて置きたい事は、幼兒にお話をする際手近に黑板がある時は、ゑをかいて、その狀景の大あらましでもが分る樣に、手早く次々とかいて行くことです。これは非常に、理解をはやめ、印象を明瞭にし、感動を樂にさせ疲勞も倦怠も少くする事が出來ます。これには形はまづくつても早い事が第一の條件であります。

今一つは、お話をする私共は、人格の陶冶を望み、藝術にしたしみ常に明るい輕い心と、こどもに近い見方を培養することにつとめなければならぬ事であります。(終)—昭和五年七月二日—

水！　水！　水！

水谷年惠子

一掬千金

碓氷峠を上りきつた處、丁度信濃の國と上野の國との境目に、權現様のお社がある。社殿の前の石段を上ると、左右に輪型の石が据えてある。

碓氷峠のあの風車、誰を待つやらくる〳〵と。風が吹いても動かぬ石を、誰を待つやらくる〳〵と。」唄にしたのは誰だらう。

社殿に近く路傍に日本武尊の、「吾妻はや。」と仰せられた跡がある。今、叢の中に建てられたさゝやかな碑が、二千年の昔を物語つてある。弟橘媛が一命を捧げられた相模の海はどの方向であらうか、空にはたゞよふ雲、地には連なる山々の姿ばかりで、波の色は見るよしもない。

尊の御遺跡から數町谷間の方へ下ると、地の底から湧出す山の清水がある。小池を湛へて、あふれた流れが山川となり、末は野に出て、碓氷川となる。

水！　水！　水！

烈日の下に碓氷峠を喘ぎのぼつて、夏木立の茂みの蔭に音もせず湧く清水を掬べば、掌は玉と冷える。口中に含めば白雪と冴え、飲めば胸裡に涼風が通ふ。

碓氷峠の水！　水！　水！

夏毎に碓氷峠の清水を想ふ。

誰を待つ碓氷峠の風車、「吾妻はや」のみ聲の遺るあたり湧く清水！　一掬千金！　夏毎に汲まんとぞ思ふはあの碓氷峠の眞清水である。

露命一滴

信州の輕井澤から上州の草津溫泉に至る電車に二時間ばかり搖られて、中間の驛、北輕井澤で下車すると、近年はじめられた法制大學村がある。村と言つても今の所、草木の茂みの中に、數町の此方に一軒、十數町の彼方に一棟といふ風で、至つて寂然たるものである。

渺々たる高原の一方に威容を示す淺間岳が煙を噴いてゐる。何時の昔にか、この山の降らした灰が地上の總べてを埋めたものと見えて、時に山門の石段などが發掘せられるとか言ふことである。

見渡す限り雜草と矮木が緣を延べて果しなく續く間に、疎に建てられた村の家は、何れも避暑の別莊で、都の人が、ボツリ、ボツリと出掛けて來て夏だけ住まふ。高原の夏はよい。ほのぼのと明け行く空の彼方に、淺間の岳が香の煙を焚いて、露帶びた桔梗の蕾が力一ぱいふくらんで、ポンとはじけて大きく咲く。

草木をかきわけて、建てたばかりの別莊へ行つて住んで見た。あたりは灌木と丈の高い草ばかりの別世界である。數日の間、天の原から吹く風の涼しさと、車軸を流す夕立の快さに心身ともに洗はれて、爽やかな氣分にひたつてゐる所へ、見知らぬ人が訪ねて來た。

「お隣り――と言つても五六町向ふの者ですが、實はさぞ勉强が出來るだらうと、唯一人で來ました所、あたりに人一人居らぬ寂寞が骨身に泌みて、仕事が少しも手につきませんでした。こちらにお出でになつた方があるとわかつてから、やつ

と落附が出て嬉しくなりました。」
と言ふ。こちらも喜んで、
「秋風の立つ頃までは御隣同志、互に勵みませう」
と笑ふ。何にしても人氣が乏しい。
　或日、家の附近に十年の前から住みついて、不便と寒氣と寂寥とに耐えて來た一家族のある事が發見された。住みかは草深いなかに、あたりの木を切つて柱とし、草の屋根を葺き、柴の戸を立てゝ僅に雨露を凌ぐ埴生の小屋である。それに夫婦と子供と、一家五人が住んでゐる。父親は村の普請場へ働きに出掛ける。母親は或別莊の炊事を手傳に通ふ。あとに殘つた子供達は八九歳の女兒を頭に三人、一人が番傘を抱へて、原の中を一日中ぶらりぶらりとさまよひ歩く。
「こんな天氣に何だつて番傘なんか持つてゐるの。」
「雨が降つて來るんだもの。」
　かう答へるのも無理がない。カラリと晴れた青空にも、油斷のならぬ淺間の山麓、あつと言ふ間に、一天俄にかき曇つて、篠つく雨のどしや降がはじまる。ソラと言つて駈けこむ軒も無ければ、雨やどりする大樹の蔭もない。此の時此の際、高原の子等は抱へ持つたる番傘をさつと開いて、三人が一傘の下に集つて、雨の過ぎるのを待つのである。
　桔梗・刈萱・女郎花、色鮮やかに咲く大高原の眞只中で、一ひらの傘をたよりの子供等が、盆を覆へす夕立に打たれて居る態を思ふと、可愛らしくもあり、可哀想でもある。
　二本棒を垂らして、赤髮をざんと下げ、いとも無表情な顏附をして外來の都人を見やる姉娘に、
「どうして學校へ行かないの。」
と聞くと、
「靴がねえだもの。」

と言ふ。

「どうして髪をいはないの。」

と聞くと、

「櫛がねえだもの。」

と答へる。どうして毎日外を歩いてゐるのと聞くと、

「うちへ這入れねえだもの。」

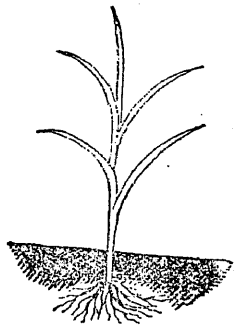
と言ふ。

母親に聞いて見ると、兩親の留守中に、子供達が惡戯して、マッチをすつて、ボウーと草家を燃してしまつた。それ以來、留守中は錠をおろして置くのだと言ふ。

草深い此の曠野に、妻を携へた若者が、飄然として來て、住みつくに至つた動機は何であらう。外でもない、叢の中に湧く一すぢの清水である。草の根を濡して、細々と湧く清水！　この清水こそ、さすらひの若き夫婦を、人家のない此の高原

に土着せしめる源であつた。若者はこの清水の傍に、己の手で夫婦の寢るべき小家を作つたのである。

一すぢの清水！　これが此の一家五人の生命であつた。湧いて出る細い清水を、地の窪みに溜めて、これを飲んで、夫婦は三人の子供を得た。この清水が涸れない限りは、此の一家は此の小家に繁榮するであらう。



童話

小野　直

王様のお池

あのね、お池の大きな葉つぱの上に、お父ちやん蛙と、お母ちやん蛙と、お兄ちやん蛙と、赤ちやん蛙と、おすわりしてゐたの。

お兄ちやん蛙がね、お池の中に「とぶん」と、飛びこんで、ちやぶ〳〵〳〵と、およいで向ふの大きな葉つぱの上に、ちよこんとおすわりしたの。

こんどはね、赤ちやん蛙がね、「とぶん」(前より小さい聲)と、飛びこんで、ちやぶ〳〵〳〵(前より小さい聲)と、およいで向ふの大きな葉つぱの上に、ちよこん(前よりも小さく)と、おすわりしたの、お兄ちやん蛙のおとなりにね。

そしたらね、お母ちやん蛙が、「どぶん(前二つより大きい聲)、と飛びこんで、ぢやぶ〳〵〳〵(前より大きく)と、およいで、向の大きな葉つぱの上に、どしんとおすわりしたの、お兄ちやん蛙のおとなりの、赤ちやん蛙のおとなりにね。

こんどはね、お父ちやん蛙が、大きいお目目をして、お池の中に、どぶ!ん(前よりも更らに大きく)と、飛びこんだの。そしてね、どぶん〳〵と、泳いでね向ふの葉つぱの上に、お兄ちやん蛙のおとなりの、赤ちやん蛙のおとなりの、お母ちやん蛙のおとなりにね。どしーん」(大きく、力を入れて)と、おすわりしたの。

そしたらね。あんまり、(氣を入れて)お父ちやん蛙が元氣よくおすわりしたのでね。葉っぱが、破れて皆大さわぎをしてお池に落ちこんぢやつたの。大いそぎ〳〵で向ふの葉っぱの上にお行儀よくおすわりしたの。

「まあ、面白かつたわね。」

といつて皆んなで笑つたの。

このお池は、どこのお池、王様のお池なの。王様が、あははとお笑ひになつたの。

今度は、お父ちやん蛙もお母ちやん蛙も、お兄ちやん蛙も、赤ちやん蛙も、ちよこんとおじぎをして、皆で一しよに、あははは」と笑つたの。

おかしいわね、おほほほほ、おしまひ。

注意

(最も、幼兒のよろこぶ話、繰返へされる言葉の、音の高さ、長さをよく加減すること)

蛇の卵

おぢいさんは、たつた一人のひとりぼつちなのです。お山に柴刈に行くのも一人、町にお買物に行くのも一人、御飯の時も一人、お掃除をするのも一人なのです。おばあさんもなければ、子供もありません。面白い時に一しよに笑ふお友達もありません。ほんとに、ひとりぼつちのさびしいことです。

ところが、ある時、この一人ぼつちのおぢいさんのお家に、鳩が一羽あはてて飛込んで來て、「あゝ助けて下さい。おぢいさん。おぢいさん。大變なんです。私は大怪我をさせられました。そして、見つかると殺されるのです。ねえ、おぢいさん。おぢいさん。」といひました。

おぢいさんは、そつと、鳩を抱上げて身體をしらべて見ますと、大怪我をして兩方の羽がぶらぶ

らになつてゐました。血はまだ〳〵出ゐますし、これでは飛んで行けさうにはありません。おぢいさんは、お藥をもつてゐませんでしたので、きれいな水で、きづ口をあらつておぢいさんの懷ろに入れてやりました。鳩はよろこんで何度も御禮をいひました。

「おぢいさん。いまに獵師が來るでせうから、その時は、この卵を私の代りにやつて下さい。これは私の卵ではないのです。もらつた卵なのです。」と賴みました。卵は、鳩の卵よりはずつと大くつて、色は綺麗な〳〵卵でした。お爺さんがほしい程立派な卵でした。

やがて、獵師がやつて來て、「鳩をよこせ。ここへ逃げ込んだに違ひない。出さないとひどい目にあはせるぞ。」とおどしました。

おぢいさんは、鳩が可愛想ですから、綺麗な卵を出して、渡して「この立派な卵をあげるから、あの鳩は許して呉れ。」と賴みました。獵師は、喜んで、一度は許すといひましたが、あの樣なきれいな卵をあの鳩が產むのだと思ひましたので、あの鳩がほしくなりました。そして無理に鳩を呉れといひました。

「ぢや、その卵をあげたことは何の益にもたゝぬことになる。その上、この鳩がその卵を產んだのではない。」

獵師はどうしてもきゝ入れません。

「おれは、この卵一つより、これを產むその鳩がほしいんだ。」

といつて、惜しげもなく卵を下に投つけました。卵は、ぱちつと大きな音で割れますと、中から、大きな蛇が出て來ました。そして、驚いてゐる獵師を目懸て飛かゝりました。恐しさにふるへ乍ら大ごゑをあげて獵師はどこまでも蛇に追れて逃げて行きました。蛇は追つかけて行つてそれつきり

戻つては來ませんでした。

おぢいさんが蛇の出たあとを見ると、前と同じ大きさの卵が九つ出來てゐました。皆どれも〳〵綺麗でしたが、おぢいさんは、それがちつとも欲しくはありませんでした。

暫くすると、獵師は大勢の仲間を連れて、蛇退治とお爺さんを殺す考へでやつて來ました。

おぢいさんは、命をとられる事と思つてゐますと、九つの卵が、ひとりでに、ぽん〳〵、ぽん〳〵ぽ、ぽん〳〵、ぽんと割れると、中から大きな蛇が出て來ました。九ひきの大蛇はどこまでも〳〵獵師たちを追かつて行つたのでせう。歸つては來ませんでした。大蛇が出たあとには、九十九の大きな卵が綺麗にぴか〳〵光りながら集まつてゐました。が、おぢいさんはちつともほしいとは思ひませんでした。おぢいさんは、

「さあ〳〵。卵よ。おまへ達は、わるさわぎをするから、おぢいさんは、氣味がわるくつてしようがない。しばらくお前達の氣の落つくまで、ねむらせてあげやう。」

といつて、大きな穴を掘て、その中にやはらかい藁を一面に敷くと、一つづゝの卵が腹を立て割ぬやうに、そうつと〳〵穴につみ重ねて藁をかぶせました。その上にどん〳〵土をかけてすつかり埋めてしまひました。

その時に小さい可愛い金色の卵が一つあつたのも一しよに入れてしまひました。

鳩は、惜しさうに、

「まあ、おぢいさんあの金色の卵も埋めたのですか。あれは、おぢいさん、大事な卵でしたのに。」

といひました。しかし、おぢいさんは、もう一度あの蛇の卵を掘りだして、金の卵をその中から取るのはいやでした。

翌日、卵を埋めた土の中からピョ〳〵、ピョ

〳〵と、ひよこの鳴く聲がします。その次の日、卵を埋めた土の中から、ピヨ〳〵、ピヨ〳〵とひよこの聲がはつきりします。その次の日、卵を埋めた土を、ポコ〳〵、ポコ〳〵と動かし乍ら、ピヨ〳〵、ピヨ〳〵とひよこの可愛い聲がします。おぢいさんははじめて氣がついてしばらく、じつと聞いてゐました。するとその聲はだん〳〵綺麗な聲にさえて、ます〳〵可愛い鳴き方になりました。

「おゝ、かはいい聲だ、外に出いのだらう。目がさめたのなら、出してあげるよ。(ピヨ〳〵ピヨ〳〵)おゝ可愛い〳〵。」

と、土をすこしのけると、かはいゝ、ピカ〳〵光る金のひよこが、出て來て、身體の土をぶる〳〵つとふるひました。

「あゝ、かはいゝ。おゝ、よい聲だ。」

と、よろこびました。おぢいさんは、あまり珍らしいので王さまにさし上げました。王さまは大變およろこびになつて、ごほうびを澤山下さいました。そして、「この鳥はどこで生れたか」とお尋ねになりました。

「はい、私の家の前の土の中から生れました。」

王様は「おかしな事をいふとしよりだ。」とお考へになりましたが、

「まだ、あるだらう、皆もつてまゐれ。御ほうびはどれだけでものぞみ次第だ。」

と、仰いました。

おぢいさんは、お家へかへると鳩と一しよに、王様に頂いた御褒美を見てゐました。すると、

「おぢいさんと、一しよぢやないといやあだ。おぢいさんと、一しよでないといやあだ。」

と、泣て來るものがあります。おぢいさんが見ますと、あの可愛い金のひよこが、泣ながら、よち〳〵歸つて來ました。ひよこは、籠から出てかへ

つて來たのでした。

おぢいさんは、ひよこをつれて、王様の御殿にもつてまゐりました。

「ひよこが、歸つて來ましたので、つれてまゐりました。」

と申し上げました。

王様は、鳥籠から出てかへつたひよことは思ひませんでした。それで、「妙なことをいふとしようだ」とお考へになつて、前と同じに御褒美をもたせてかへしました。

◇……

そのあとから、金のひよこは「おぢいさんと一しよぢやないといやあだ。」と泣いて歸つて來ました。

おぢいさんはその次の日、鳩をお留守番において、ひよこをつれてまた王様のところへまゐりました。

「ひよこが歸つて來ましたので、つれてまゐりました。」

そして、御褒美を頂きました。こんなにもらつたらおぢいさんのお家は御褒美で一ぱいになつてしまひます。

「おぢいさんと一しよでないといやあだ。」

と、可愛い聲で、綺麗なひよこが、小さい口をあけて泣きますので、おぢいさんも歸る事が出來ません。王様も「此の小さいひよこを一人ぼつちにするのは可愛相だとお考へになつて、「どうしたらよいか」お困りになりました。そのうちにふとお氣づきになりました。

「よし〳〵、おぢいさんも、この御殿にこの鳥と一しよに居るがよい。」

「王様、私には、まだお供があります。」

「誰か、おばあさんか」

「いゝえ、鳩が一羽ゐます」

「鳩も一しよでよい〳〵。」
と、王様はおゆるしになりましたので鳩も御殿で暮せるやうになりました。

◇……

王様の御側には、大變慾の深い家來がゐました。「おぢいさんのゐぬ間に、王様に頂いた御褒美を取り、又、家の前の土の中の澤山なひよこをとつてやらう。いそげ〳〵。」「御褒美はのぞみ次第だ。」と、手下の者を何百人もつれて行きました。

大勢はまづ、卵を埋めてある土を掘かへし〳〵して藁までほつて來ました。藁をのけると、九十九の卵は久々で明るいところへ出ましたので綺麗に光つてゐました。慾の深い家來は大よろこびによろこびましたが、卵がぽんとわれると大きな蛇が出て來ましたので、驚いたも驚かないもありはしません。ぽん〳〵、ぽん〳〵、九十九の卵がわれてしまはない間に、慾深の家來も何百人の手下も、あちこちに逃げまどひました。そして、九十九ひきの大蛇は、追ひまはし〳〵て、家來も手下も蛇もそれつきり姿は見えませんでした。

王様の御殿では、大怪我をした鳩もすつかり元氣になつて、朝から、御殿で「王様　お早う、王様お早う」と鳴きました。ひよこは、まだ　子供ですから、こんなにおぢいさんと一しよにゐても、「おぢいさんと一しよでないといやあだ。」とうれしさうに昔の通りに鳴いてゐました。

おぢいさんは、これからは、たつた一人のひとりぼつちでなくなつて、面白い事をいつて笑ふお友達が澤山できました。おぢいさんは、あははと笑つたでせうか。おほゝとわらつたでせうかね。おしまひ。

—昭和五年六月二十八日作—

注意

一、◇……から◇……は省いて話してもよいところです。

二、「おぢいさんと一しよでないといやあだ」は省いて話し

てもよい。

お菓子と蟻

お座敷のお庭に、お菓子のほんとに小さいかけらが落ちてゐましたの。

蟻のおぢさんが、それを見つけて、そつとにほつて見ました。

「ウン、これはたしかに、うまさうだ。」

それから、そつとなめて見ました。

「ウン、これはすてきにあまいぞ。」

それから、おぢさんはそのお菓子の上にのつかつて、その大きさを調べてみました。すると、蟻のおぢさんよりずつと〳〵大きいのです。

「オヽ、これはずゐぶん、大きいな。」

それから、せめて轉してでも歸らうと、おぢさんは、力を入れて「ウンと押せ」「ウンと押せ」と

やつて見ましたがビリツとも動きません。

「これや、ひとりでは大變だ、皆を呼んで來やう。」

と、いつて大いそぎ〳〵で御殿に知らせにかへりました。すると、一番に、お菓子のところにまで大いそぎに來たのは蟻の子供等でした。お菓子を見てびつくりしました。

「おぢさんのいつたのはこれだね。」

「うまさうだな。たべられるかしら。(なめて見る)うまい〳〵。すてきだな。」

「うまいかい。(なめて見る)。やあ、あまいね。」

「うれしいなア。僕等だけで食べやうよ。」

「僕たちだけでたべやうよ。」

蟻のおぢさんは、

「これ、お前たちは、一人でたべるのぢやないんだよ。一人で見つけてもみんなのものなのだ。

早く、王様にお知せしておいでよ。」

蟻の子供たちが、急いで歸つて來ました。入口の番兵にぶつつかり乍ら、「大變、大變」と奥にはいつて行きました。

隨分、蟻の御殿は廊下がずゐぶん長いので、子蟻が、王様のところに申上げるまでにつかれてしまひました。

王様は、けらいにいひつけると、けらいがばた〳〵あわてて出て行くのにも入口までにつかれてしまひました。

ぞろ〳〵と、蟻の兵隊が一列にならんで、大いそぎ〳〵でお菓子の山に進んでゐるのは仲々勇ましいことです。

お菓子の側まで來ると蟻が一ぴき〳〵驚いて、お菓子を押して見たり、お菓子に上つて見たりしましたが、皆で、とう〳〵、かついで歸つたらどうか、といひだしました。蟻のおぢさんは、

「皆、よくきゝなさい。このお菓子の山は見事だから、このまゝ、王様のところまで上手に引いて歸らうぢやないか。さうしたら王様がおよろこびになる。分つたものは足をあげて。」

と、いひました。蟻は、皆、おぢさんのいふことをきいて、足をあげましたが、長いひげまでうごかして、「賛成」「賛成」といひました。それから、澤山の蟻がお菓子をくわえて引つぱると、

「えんやら。えんやら。わつしよい。わつしよい。」

と、ぽつぽつ〳〵。お菓子を動かしはじめました。動いたといつてもわづかづゝなのです、でん〳〵虫のあるくのよりも、もつと〳〵おそいです。

「わつしよい。わつしよい。」「えんやら。えんやら。」

王様の御殿までまだ大分遠いのにとう〳〵、お晝御飯をたべなければなりませんでした。

「わつしよい。わつしよい。」
やつと、御殿まで着きましたが、入口が小さいのでお菓子の山は、仲々はいりません。
蟻の王様は一入口を大きくして、ころがしこめとおつしやいました。
他の蟻は、入口の土をもつて遠方にすてに行きました。
せつせ、せつせと働きました。
その間に、お菓子の山をこわしては、お腹の袋に入れた蟻がありました。そつと、とつてゐるのを、お隣の蟻が見てゐて、又、自分もそつととつてお腹の袋に入れました。そのお隣の蟻も、そつととつて入れました。そのお隣の蟻も、そつととりました。そつとそつととつたのですけれども何百の蟻がとつたので、お菓子の山は小さくなりました。それで、お菓子が大きくなつた入口をころがりこんだ時に、わけもなくごろ〳〵ころがつて、

王様の前までひとりでころがつて行きました。
王様は、これを御覧になつて、おぢさんの蟻に「大へん大きい〳〵といつたが小さいではないか。」
と、おつしやいました。おぢさんは、「こんなはづはございません。」
「私が動かすこともどうすることも出來ない位でした。誰かがどうかしたのでせう。」
と申上ました。王様は
「誰がこれをとつたのだ」
とおたづねになりました。
お腹の袋がお菓子で一ぱいになつてゐる澤山の蟻は、皆
「知りません。」といひました。
王様は、蟻のおなかを指て、
「この中には何がはいつてゐるのだ。」
「しりません。」

「よし、しらなければ出して見せる。」
と、おつしやつて、力の強い蟻に、お腹をひどく押させました。すると、すつかり、とつてゐたお菓子が出て來ました。皆な押されました。みんな苦しい〳〵と泣き出してしまひました。すつかり出してしまふと、王様は、
「これは皆のものだから、皆で一しよに仲よくたべなければならぬ。さあ、皆、一しよにたべるんだ。」
皆はよろこんで、たべて、歌つたり、おどつたりしましたが。お菓子ののこりは、お倉にしまつて置きました。
わるいことをした蟻は、王様の前でおなかを押されたのがよほど苦しかつたと見えて、二度と、そつと取るやうなわるいことはしなくなりました。
蟻の行列は、お座敷の庭で、毎日ありますので、よく耳をすませてきいてゐると、わいしよい〳〵、えんやら〳〵どこかでいつてゐるのが聞えるやうでなりません。皆さんはお聞になつた事がありますか。おしまひ。　昭和五年七月二日

× × ×

敵討をされた猫君の話

土田和雄

一、

ヨシ子さんのおうちの近處に一疋の猫が住んでおりました。
この猫君、たいへん惡い奴です、ニハトリをひどいめにあはしたり、またお晝時や、夕ごはん時に、お魚の燒けるうまさうなにほひがすると、ふん〳〵ふん鼻をならしながら、こつそりとお勝手からはいつてきて、お魚をもつていつてしまふのです、まだまだいろんな惡るいことをたくさんしま

す。

ある日、ヨシ子さんのだいじな〳〵金魚が、この猫君のために、もつてゆかれました。

「まあ、可愛想に」さういつて、ヨシ子さんはなみだをながしてかなしみました。

「ヨシ子さん、なかなくてもいゝですよ、また買つてあげるから」とお母さんが申しましたが、ヨシ子さんは金魚さんが可愛想でなりません。

「金魚さんごめんなさいね、あの憎い憎い猫め、いまにみるがいゝひどいめにあはしてやるから、」

ヨシ子さんは、おとなりの一郎君にはなしました。

「わたしくやしくつて〳〵ならないの、なんとかして金魚さんの敵討をしてやらうと思ふの」ヨシ子さんがいひますと、

「よし僕が、いゝことをかんがへてやる」と一郎君は、頭をかしげて「さうだ、いゝことがある、ねずみ花火を猫のとほる草やぶにかくしておくんだ」といひました。

「さうね、それは、うまい考へだわ」ヨシ子さんはすぐ一郎君の考へにさんせいしました。

二、

そこで、二人はさつそくせんかう花火を買つてきて、猫君のとほる、みちの草やぶにかくして見てゐますと、むかうの木のかげから、猫君、なにかいたづらがないかと、ノソリ〳〵とやつてきました。

「やあ來たぞ〳〵」

「しッ!! だまつて〳〵」

二人はむねをドキ〳〵させてかくれてゐます、猫君、なにもしらずに、あたりをキョロ〳〵みまはしながら「やい變なにほひがするぞ、」と、とつぜん、猫君の鼻のさきでシュ――ボボンボン〳〵と花火がなりました。「ニャオ」と猫君は、とびあ

がり、「だ、だれだ、なまいきな奴め、俺れはこんなことではおどろかないんだぞ」さういつて、こはい顔をして、二人をにらみつけました。

二人はこはくなつて、おうちの中へ逃げこみました。

せつかくのけいりやくもうまくゆかなかつたので、ヨシ子さんはざんねんでなりません、なんとかして、あの憎い猫めひどいめに、あはしてやらなければと、考へましたが、どうも、うまい考へはでません、これは兄さんに相談するほかにみちはないと、ヨシ子さんは兄さんのところへやつてきました。

「兄さん、わたしくやしくつて〳〵ならないの、なんとか猫の奴め敵を討つ方法はないでせうか」

とたのみました、すると兄さんは、

「よしよし僕が、いゝことを教へてやる」とさつそくひきうけてくれました。

さて、兄さんはいつたいなにを考へてくれたことでせう。

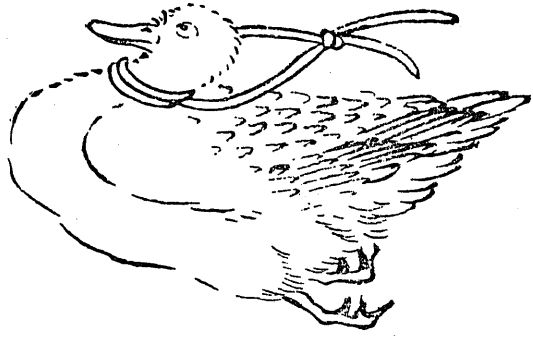
三、

こちらは猫君、今日もなにかうまいことがないかとノソリ〳〵とやつてきます、見ると、金魚ばちの中に、大きな金魚が三疋ばかりたのしさうにおよいでゐます。

「しめた、これはうまいご馳走だ」猫君は、「ニャオ」と一聲いつて、しばらくあたりをキョロ〳〵うかがつてゐましたがこんどは、金魚のまはりを二三度ぐるぐるまはり、そつとはちの中へ手をいれました、と思ふと「ニャオ」といつて、手をひつこめました、そのひやうしにはちをひつくりかへし、頭から水を、ではない熱い湯をかぶつて大やけどです、金魚だと思つたのは、おもちやでした。

ヨシ子さんと一郎君は障子のかげから手をうつ

て、はやしたてました。
「どうだ猫君、降參したか」と一郎君がいひました。
「はい〳〵もう決していたづらはしませんから、ゆるして下さい」と猫君は涙をボロ〳〵こぼしてあやまりました。
ヨシ子さんは、かへつて猫君が可愛想になりました。
「いゝわ、もう惡るいことをしなければゆるしてあげるわ」ヨシ子さんがいひました。
「はい、はい、決してしません〳〵」と猫君はペコ〳〵と頭を下げました。
ヨシ子さんは、うま〳〵と金魚さんの敵討をすることができました。
猫君もそののちはもういたづらをしなくなりすつかり、おとなしくなつたといふ話です。



睡蓮

大岩金

極暑の候に際しまして今回は水に縁のあるこの睡蓮に就きまして例の通り簡單に栽培法を申し上げます。

屬名をニンフイアと申しますが是はギリシャ及びローマの神話の中にある水中の女神の名を採つたものださうでありますが盛夏の候水中に光澤ある綠葉を浮べこの中に白、紅、とり〳〵の花を泥にもしまず開花した樣は誰しもこの淸々しく、俗情のない點に實にやと首肯される事と思ひます。

さてその原產地は南北の溫帶地方でありまして四十種ばかりの品種がありますが是を大別致しまして耐寒性と不耐寒性との二種類と致します。不耐寒性のものは冬期は溫室內で越冬させなければなりませんから一般には耐寒性の方を栽培した方が安全であります。耐寒性の方の球根卽ち根莖はワサビ狀をして居りまして是から更に白色の太い根を出すのであります。

一、用　土

畑土に腐葉土三、四分を交ぜたもの又は田土を乾して是を小さく碎いたものなどが適當して居ります。

二、植　付

三月の下旬か四月になつて霜のおそれのなくなりました時に行ふのであります。

繁殖は一般には株分法に依つて居りますが播種法に依つても繁殖させる事が出來ます。その株分の仕方はワサビ狀の根莖を一〇糎位宛に切斷すればそれでよろしいのでありまして極簡單であります。尙この時ついて居ります芽があまり澤山ありますの時はその中大きい丈夫さうなもの二、三個を殘して他は切りとつておいた方が他の芽の成育がよいやうであります。

かくして芽分しましたものは前記の用土で鉢又は箱（この器の大きさ芽の大小に依り二〇糎—二五糎の口徑のもの）に植ゑ是をリリーポンドに入れるのであります。このリリーポンドの形には方形、圓形、長方形、その他種々な技工をこらしたものが洋式庭園などには澤山ありますが要はその深さにあるので植ゑ込みました鉢の土面から水面までの深さは凡そ三〇糎內外が適當であります。又水面よりポンドの緣までは凡そ一〇糎內外の深さを必要としますから全體としてのリリーポンドの深さは六〇—七〇糎位のものでよいのであります　是に準じてリリーポンドの設けのない場合には他の大なる甕又は樽に水を盛りその中に入れればよいのであります。或はまた池に直接植ゑ又は睡蓮鉢といふ特殊の鉢に植ゑて他の器に入れない事もあります。睡蓮鉢の大きさは口徑六〇糎以上深さ三〇—四〇糎位のものがよいのであります。鉢が大なれば自由に葉が擴がる事が出來まして睡蓮の爲にも外觀にもよいわけであります。この鉢を用ひます時は鉢の深さの七分目位土を入れ殘り三分に水をはつておくのであります。この水は植ゑ込みの當時は尙更汚れ易いものでありますからその都度取り替へてやります。尙時にはボーフラなどの繁殖する事がありますから小さい金魚・メダカなどを數匹飼つておくのも一方法であります。しかしこの場合には睡蓮の根元を小石の如き

でおさへておきませんと根をつゝき食される事があります。

三、肥　料

植込みの際の基肥と致しましては干鰊の如き魚肥を用ひます。棒の如く長いものはそのまゝ鉢の周圍から底の方に一鉢につき一〇糎長さのもの三四本を挿し込み粉狀のものですと一握位宛を新聞紙に包んだもの二三個を前同樣鉢の周圍から鉢底に挿し込むのであります。紙に包みません時は粉が徐々に水面に浮び是がため小魚が土をつゝきまはす心配があります。

その後の追肥と致しましては魚肥に油粕を交ぜたものを前同樣の方法で時々挿入すればよいのであります。又油粕と灰と土とをねり固めまして是を土中に入れましてもよいのであります。

四、開　花

充分な施肥と日照とに依りまして葉はずん〳〵と伸びやがて蕾もみえて來るのであります。かくて六月頃から晩秋の頃まで咲きつゞけるのであります。

花には晝咲種と夜咲種とがありまして晝咲きの方は朝七、八時頃から午後二、三時頃まで咲き、夜咲きの方は日暮から翌朝八時頃まで開いて居るのであります。蕾から次第に水面上に頭をのばして終に外界で開花し花が終りますや又水中に沈んで實を結ぶのであります。

花色には、白、黄、淡紅、濃紅、紫など種々にありますがいづれおとらぬものであります。

五、越　冬

耐冬性の種類でありますならば水を入れたまゝでも越冬する事が出來ますけれども寒地にありましては甕に蓋をするか或は水を少なくして落葉を入れ又は全體に霜除するのであります。

六、切　花

自然に咲いたまゝを觀賞するに越した事はありませんけれども他の草花と同樣に切花と致しますれば涼味の豐富なものでありますから一言附けておきます。是を盛ります器は必ず平らな水盤を用ひるのであります。是に清水をたゝへその中に葉の幼老樣々なもの卽ち未だ開展しないもの、半開のもの、全開のもの、花も同樣なものを切り、自然にならつて配置よく永面に浮ばさせるのであります。かくて是を切斷致します時はなるべく水中で致しますれば花持ちが長いと申します。又その切口を毎日少しづゝ切り直してゆく事も水揚げをよくする一方法だと申して居ります。

日本幼稚園協會總會

七月二十二日より六日間、毎日午前中の文部省幼稚園の講習開會中の好機に、協會主催の遊戯講習會の終つた翌二十六日午後一時より同講習會場に總會を開催。未會員講習員の御出席も願つたので殆んど全講習員、加へて外來會員、多數の出席あり、會頭まづ堀主幹立つて、

「本年は協會創立三十年、幼稚園の創立五十五年、幼稚園令發布五年の芽出度い年に當るから、本協會主催で、五月頃大々的に記念祝賀會開催をと、年頭に計畫したのが、皇后陛下行啓の慶事で準備不能となり、今日の總會に到つた」

と、開會の辭を述べられ、續けて會務報告に移り、

「本協會は震災で打擊を受けて、當時實に細々と困難な會計を維持して來たが、最近になり會員は增加、同時に協會の名で出版した收入、其の他の雜收入によつて相當多額の基本金が出來、こゝに堅實な基礎に立つことになつたこれ等の收入は會費によるのではなく殆んど出版物の印稅によつては居るが本會は會員組織、皆さんの會である。我國には全國的な幼稚園協會といふものは本會がある許り、機關雜誌幼兒の敎育も亦幼稚園界に獨占的な地位を持つてゐる。この日本に於ける唯一的地位を持つ本會、又雜誌、しかもこれは自分達の會として永く愛顧されたい」と、

續いて、女子學習院敎授の宇佐美敬氏の「歐米幼稚園の實際を見て」の講演と、東京文理科大學生小野直氏「幼兒の面白がるお話」の實演とあり。一は我等の知りたい、聞きたい外國幼稚園の樣子、他は毎日の保育の上に宜い參考になる話、最後に女高師附屬幼稚園若手幹部の人形芝居、(お菓子の家、猿蟹合戰)、は無邪氣に大人共を大よろこばせる。

さゝやかな茶菓が伊され會員相互打ち解けて話し合ひ出したのは五時頃間もなく散會した。

『幸吉の旅』

東京女子高等師範學校教授　岡田　みつ

三

上手に采配を振つて、幸吉は、ステーションのすぐ裏の土手に部下の軍勢を集合させた。そこでブリキ罐だの貝殻だのを掻き除けて、手車の納まるだけの場所を作り、さて自分はポチを足許に丸く蹲まらせて、これからの策戰　考へた。

彼は搖らいでゐる頭髪からぼろ帽子を押しやつて、兩手に膝を抱へて、前面に聳えてゐる煙突、遠くに見える白帆の船をじつと眺めてゐた。その眞面目な眼には大人ほどの眞劍さが閃めいてゐるし、陽光を受けたその一圖な顏付には、人間らしさが消えて、神々しさが現はれてゐた。こんな子に父親があつたら、これが我子だと自慢に胸を躍らせてその重すぎる肩の荷物を受取つてやつたらうに！

森山お房は死ぬかもしれないと他人が噂をするのを聞いて以來幸吉は菊孃に家と「母ちやん」とを見付けてやらうとの願を掛け始めたのだ。自分は以前にホームと名のつく公けの建物に居た事があるが、菊孃には、ちんまりした小さな「お家」といふものがやりたかつたのだ。

ブリキ罐と貝殻の中に坐つて、ポチと菊ちやんとを眺めながら、幸吉は過去のさま〳〵の事を思

ひ浮べて見た。至つて手短かな過去なのだが――大きなお船に乘つて長く旅をしたつけ、それから何日も〳〵長く病氣に罹つて……何ヶ月も經つたのだつたかしら……その時だつた髮を短かく切つてしまつてそしてみんな何かを忘れてしまつたのは。さうしてその次が孤兒院で――そこへお房が連れに來て――それから、あの嬉しい〳〵事があつたんだ――そら菊ちやんが居たんだもの。それからあの厭な湊小路の家――と、これだけ思ひ出すのに暇はかゝらなかつた。

幸吉は貯金箱を破して見た。中には、嬉しや財産が一圓八十五錢あつた。豫想外だつたので、彼はアハ……と笑ひ出した。するとポチが尻尾をちぎれるかと思ふほど振りに振つて、手車に跳り込み、とう〳〵菊ちやんの目を醒させてしまつた。

これこそ樂しい一家のまとゐで、これから揃つて田舍へ行くのだ。御飯や宿の事は覺束ないが――そんな事は些細な事なのだ――青い〳〵草原へ行つて幸吉は、ほんとの鳥が樹の上で啼くのを聞くんだし、菊孃はそこらの花を摘むんだし、ポチは？　大方好味さうな野鼠か栗鼠でも捉へるのだらう、菊孃はもう今から有頂天になつて居た。この幼兒の心には過去に對する執着も、現在に對する苦勞も、未來に對する憧憬もなかつた。

唯目前にあるものだけが天地なのだから、この陽の射してゐる六月の朝、ふと眼に映つたのが湊小路のいつもの光景でなく、貝殼やブリキ罐のある土手だつたのが分けても悅ばしいのだつた。

朝御飯がまづ第一。

都合よく近くにポンプ仕掛の井戸があつたし、牡蠣殼は手頃のコップ代用になつた。菊孃がお煎餅を三枚貰ひ、幸吉が二枚、ポチが一枚。水には何の制限も無かつたので、銘々飲みたいだけ飲んだ。

その次がお化粧といふ事になつた。幸吉は汚れたハンケチを手拭にして、井戸の水で濡らして、菊ちやんの顔と手とを優しくゴシ〳〵擦すつた。それから菊ちやんの著物の皺を伸ばした。清淨な前掛はいよ〳〵未來の母ちやんがこの子に面會するといふ際まで大切に仕舞つて置くことにした。

こんどは櫛を取り出して、菊ちやんの金髮を行儀よく梳き並べてやつた。それからで他所行の帽子を被せてやつていよ〳〵御化粧が出來上つたのだつた。

幸吉とポチは、井戸端へ行つた。幸吉はポチをポンプの口の下に入れて水を掛けた。ポチには始めての、しかも好ましくない經驗なので、こんな事なら脫走隊に加はらないで、「汚れ」が粹だとされてゐる地に居ればよかつたとさへ考へた。幸吉が手を離すと、ポチは一どきに清潔になりすぎたせいか少し氣が變になつて、グル〳〵七十何回も止みなしに身體を廻轉させた。そのおかげで、毛がすつかり乾いてしまひ、菊孃は可笑しがつてその揚句手車は窮屈だから降ろしてくれといひ出した。

幸吉は、いつもの通り自分の事は一番あと廻しにしてこれから顏を洗ふのだつた。ポンプの下に頭をやつて、顏と手とを氣がすむまで擦つてそして拭いた……可で拭いたつて？　さあ——とにかく拭いたといふ事が肝心なのだから。あの先刻のハンカチ風のものは菊孃を洗つたらもうベト〳〵になつてしまつたのだし——幸吉は髮を梳き、靴下を引上げ、靴の紐を結び直し、ジャケットのボタンをはめ、帽子の裂けたところをピンで止めようとしたら、丁度そこへポチが鳥の羽を一つ咥へて來たので思付いて、それをブラシにして塵をすつかり拂つたのだつた。さて自分のが終つてから平民的な幸吉は、その櫛でポチの毛を梳いてやつ

た。するとポチはワン〳〵吠えたてゝ、こんな目に遇ふ償には、甘味しい鼠を授けたまへと神様に祈つてゐたらしい。

八時近かつたので一行は土手を降りて停車場の横手入口から入つていつた。

驛では仕事がとくに始まつて、おきまり通りざわめき渡つてゐた。箱や樽を山と積んだトロッコが通る。驛夫が荷物をドダンバタンと甲の車から乙へと移してゐる。幸吉は、菊孃が他所行きの帽子姿で得意がつて納まつてゐる手車を曳いて入つて來た。ポチは、小ざつぱりと、けれども悄然として後からついて來た。幸吉はひとの邪魔にならないようにして通つたので、誰も文句をいふものはなかつた。それから高い黑板の前に進みよつていつた。その板には驛名が金文字で並べて書いてあつた。

一驛の名前——後へ行くほど好い名だナ。一番あとのが大變きれいな名だから、そこへ行くことにしよう」

と幸吉は、あぶなつかしい撰擇の仕方だとは氣が付かないでさう獨語を言つた。緣川驛は感じはいゝ名だけれど、ひよつとしたら鬼塚驛の方に心の優しい人が居るのかもしれないのだつた。

菊孃は「緣川」がいゝと言ふしポチも賛成したので、幸吉は停車場からずつと歩いて野天のプラットホームへ出た。そこには發車するばかりの汽車があつて、先頭の機關車は、喘息病のやうにプッー〳〵と呼吸をはづませてゐた。

車の傍に、紺服金ボタンの親切さうな男が立つてゐたので、幸吉は、思ひ切つて

「緣川まで何錢ですか」と訊いてみた。

「これは貨車だよ……緣川までは四時間かゝる。十時四十五分のまで待つ方がいゝ。驛へ行つて切符を買つてネ」とその男が答へた。

「十時四十五分！」幸吉はお安婆さんが、菊嬢が居なくなつたので、急に惜しくなつて、迫かけて來るやうな氣がしてならなかつた。菊嬢は車からよち〳〵降りて、待ち切れないといふ風で、

「菊ちやんは、今すぐ乘んのするの。すぐよ！すぐよ」

と呼び立てた。幸吉は泣きさうな顏になつた。

「もつと早く行きたいのか。大分大勢連れだから、ぢや一緒に連れてつてやらうか。オイ、金子！そこ開けてこの子供達を乘せてあとを閉めて置け。修繕に終點まで持つて行く車なんだよ。だから無賃で君達を乘せてやる」

と、先刻の男は言つた。この人は、親切氣がありすぎるからとても金儲けが出來さうもなかつた。

幸吉は、出來るだけ丁寧にその人に御禮をいつた。菊嬢は、涎のついてゐる御煎餅をその人に無理に進めた。

ポチが嬉しさうに吠え立てゝ乘りこまうとしたので、その男が、

「ヤア、犬も連れて行くのかい？　こいつあんまり綺麗でないネ。犬なんかぢきに手にはいるよ」

と言つた。

「だから連れて行くんです。きれいでないもんで誰も可愛がつてやる者がないから」

と幸吉が答へた。

ポチは御腹ん中で、

「失禮な言草だけど――何でもいゝ、一緒に行けさへすれア！」と思つてゐた。

「ぢや、いゝから、さ、乘つた〳〵、みんな。無賃で、素的に面白い汽車旅行なんだぜ！　もう發車していゝつて言つてくれ、金子君」

汽車は驛から出た。親切な男は、子供達が見えなくなるまでハンケチを振つてゐてくれた。

四

彌平爺さんは森崎といふ村まで行つて來ての歸りだつた。爺さんは年中手に餘るほどの仕事がありながら急ぐといふ事をしない男で、馭してゐる馬の「お玉」も緩くりとしたもので、草のよい匂がするとそこまでノコ〳〵踏み込んで行つて食べたりしてゐた。

彌平爺さんは、外見では、加藤のおかみさんの使にいつた譯なのだが、もう六年もこの男を使つて見たおかみさんは、爺さんを使に出せば行つて歸つて來るのに一日かゝる（行先の遠近は問題にならないので）ときめてしまつてゐた。

爺さんの特徴は、加藤のおかみさんに尋ねるまでもなかつた。その顔と姿と言語にちやんと現はれてゐるから、たとひ通りがゝりの白痴だつて判定し損ふことはなかつた。背のひよろ高い、くの字脚のしまりのない男で、お千代婆さんに言はせると、もつと〳〵ひよろ長くなるところを足先のところでやつと曲つて助かつたのだと。（お千代婆さんは森崎村と綠川村との家を廻り歩いて着物の仕立直しをする女で、口も八丁手も八丁なのでこの人の皮肉な言草は兩村にぢき傳はるのだつた）

彌平爺は赫つ毛で頰骨が高く、善良さうな眼でそれに天下一品といふ鼻付をしてゐた。何と形容したらいゝか分らないが、とにかく幅がひろくて低くて、風通しよく空をむいてゐて愛嬌があるのだつた。だからお萬さんは「彌平ぢいさんがあんなに風を引くのは、顔をいゝ工合にかしげて置かないと、雨がみんな中へ入つちまうからだ」などゝ惡口をいつたものだ。

その口と來たら顔に付いてゐる大きな「切れ目」といふだけ。口のそも〳〵の目的にはかなつて居るだらうが、どうも飾りといふ役はつとめてゐな

かつた。お仙が――もう今は亡くなつたが――この彌平のとこへ嫁に來る事にきまつた時、例のお千代婆さんが「どうして、まあお仙さんはあの彌平どんの口を我慢する氣になつたかしら、口ん中へ入らうと思へば造作ないし、口の周圍を廻らうと思へば暇さへかければ出來るけれど」と批評した。でもお仙は彌平の惡口をいはないその口、短かかつた夫婦の生涯にいつも優しい言葉ばかりかけたその口をよいと思つたのだらう。

彌平爺さんがつひ五六分前に荒物屋の前を通つたら惡戯つ子が「オイ爺さん驛のそばを通る時にや口をふさいでおけ。汽車が入つてくるかもしれないぜ」と怒鳴つた。爺さんは穩かに微笑しただけだつた。これも以前からの惡口なんで、その味がやつと近頃爺さんの頭腦にとつくりと染み込んだ譯なのだ。けれどもぢいさんの「怒り」の水漕がちいさくて、給水の管が不十分だから、爺さんを怒らせることはとてもむづかしいと村の人はいつてゐた。

爺さんは可なり學校の教もうけたのだつた。一人息子だつたので親は相當なものにしようと骨を折つたのだからうまくいつたかも知れないのに、彼の言葉によると、始終暇がなくつて、とう〳〵ものにならなかつたのである。村の小學校に十四まで行つてゐたが行かずにゐられるかぎり怠けてその後だけ通つたのだつた。小學校を出てからは三哩から離れた中學へ行つてゐたが學校へ往復して夜までに宅へ着くのがとても無理だといふ事が母親に分つたので學問の方は廢止て、家で稼業の手助けをすることになつた。それがまた例のやり方なのでかれが毎朝畠に出かける時、父親が辨當箱を渡してくれて、目に涙を浮べて、どうぞ日沒までには戻つて來てくれろといつて別れを告げたといふ程であつた。

さて、今、彌平爺さんは刻み煙草を吸ひながら、あたりの景色を眺めようともせず、ぼんやりと馬車を進めてゐると、馬のお玉が路の片方へ歩み寄て、先方からやつてくる行列（「洗濯籠にのつてゐる赤ん坊と見知らぬ少年と變な犬と）に路を讓つた。

爺さんは子供が好きなので、興ありげに靜かに眺めてゐたが、口から煙草を離して、ゆつくりかんとした調子で、

「どこへ行くんだ、エ？　沼の方か深瀬の方か」

幸吉は、沼、深瀬、どつちも好ましくないと思つたけれど、深瀬の方がまだいゝと思つて　深瀬の方　と答へた。

「おらもそつちへ行くんだ。行きさへすれアいゝのならこれへ乘つて行きなさい。綴くり行くのでかまはなけれア。お玉もおれも急ぐなア嫌ひだ。何でもゆつくりとつくりつていふんだ。お前の連中、こぼさないで乘せられるかね。

爺さんがさう言つたのも無理はなかつた。菊ちやんがやたらにはしやいで少しもぢつとしてゐなかつたから。

「あたい菊ちやんを持ち上げるから、小父さん受取つて下さい。馬きつとぢつとしてゐる？　エ小父さん？」

「大丈夫、ぢつとしてゐる。お前が乘る間、ちやんとしてゐるよ、乘つちまつてからだつて隨分ぢつとしてゐる。ほんとはナ、お玉は歩くより立つてる方がずんと好きなんだ。お玉は人を乘せて逃げるなんてことはしない。何でもそのまゝにつて奴さ。さ、乘りな、そら來た！　その手車は馬車の後に載せて。さうすれア　ちんまりしてガタともいふ事ぢやない」

幸吉は純眞な心で、これは今朝の御祈を神様がきゝ届けて下すつたのだと思つて、自分がどうの

かうのと指揮をする考をすつかり捨て、馬車が川に沿うてゴト〳〵ゆくに任せてゐた。

菊孃は、彌平の大きな手から下がつてゐる手綱の端をつかんで、自分がお玉を馭してゐるやうな氣になつて、口もきけない程に悦びきつてゐた。

ポチが栗鼠を捉へたいとの空想もまんざらうそでもなくなつて來た。かれは林の中に驅け入つたりまた驅け出したりして跳り狂つてゐた。萬一湊小路のあのみじめな所へ歸る事があつたら、あそこの犬仲間に、不思議な世界の話を何といつてきかせようかと考へてゐた。

川の對岸の草原には、黄色のバタカップが、派手やかに咲き擴がつてゐるその中を花菖蒲がそこ〻に紫に斑點をつけてゐた。

櫻の樹は一面に雪白の花を戴き路端には雛菊が草の中に雜つてよい色彩をしてゐた。この中を綠川が橋や、堰や、水車に妨げられながら海へ海へと流れてゐるのだつた。

と、俄に、彌平爺さんが手綱を菊孃の手からもぎ取つた。

「さ、大變だ！　おら、星野の後家さんを、お千代さんとこの腰掛に待たせたまゝで置いて來てしまつた。おら歸りによつて乘せて戻つてやると約束したんだ。荒物店の前通るときに餓鬼らがおれをいぢめやがるので、急いで通つたせいだ、だから角へ來ても逆上てしまつて曲らないでドシ〳〵來ちまつたんだ。いそげば廻れ！とは巧くいつたもんだ。さ、降りてくれ、みんな。もう深瀬までは五六町だ。膝栗毛に乘つて行きなさい。」

さう言つて、爺さんは、あつけにとられてゐる子供達を路の中央に降ろして、柔順しい馬を向き直させて星野の後家さんを連れに四哩戻つていつた。

あんまり事件が思ひがけなかつたので、菊嬢は泣きさうになつてゐた。幸吉は花を手に一杯摘み取つて菊ちやんに與へ顔の汚れを拭いて、清な縞木綿の前掛をかけさせ、手車に乘せてやつたので菊嬢はぢきに眠つてしまつた。

幸吉は葉の茂つてゐる林の中を車を押し〳〵歩きながら少し心配し出した。こゝまでは何もかもよい都合に行つた。實際思つたよりもうまく運んだのだ。足が何だか重くて、御腹がからつぽみたやうなのは疲れたせいかも知れない。朝出た時には菊嬢の「母ちやん」になる人があらゆる窓からさし招いてゐて、どの人に定めていゝか分らないのだらうと思つてゐたのに。今となつて見ると母ちやん」といふものが一人のこらず世の中から居なくなつたやうに感ぜられた。

ぢきに村が見えて來た。幸吉は勇を鼓して歩いていつた。兩側の家を一軒〳〵眺めるけれどこゝぞといふのが見當らなかつた。どうも大通りは家と家が近すぎてそして往來に接してゐるからと考へて、彼は態々大通から外れて楡の木が双方から枝をさし交してゐる路へ車を向けた。ポチも尾を低く垂れて、さま〳〵の誘惑に目もくれず、踏み固めた路を一心に歩いてゐた。二疋猫が居たけれども一言の惡口もいはぬポチの樣子は如何にもホームシックにかゝつてゐるらしかつた。

「あゝ困つたナ。どこのうちも何だか變だ。繪に描いてあるやうな鳩の家もないし花の咲いてる庭も、雛鷄もない。窓に婦人が居たり、赤ちやんの衣類が干してあつたりもしない。これぢやとても……」

と思つてるうちに、大きな白い家が、今まで樹で隱れてゐたものか、急に眼の前に現はれた。幸吉は、汚點一つない柵に近づいて、美しい前庭、横庭に眺め入つて——一と眼ですつかり氣に入つて

しまつた。

何から何まで注文通りだつた。果樹園があつて——まあ嬉しい！　青い林檎が山ほど實つてゐた。樹の下には面白さうな砥石があり、また別の樹の下には、青塗りの椅子と腰掛があつた。それからすぐりやグーズベリの木があり、七面鳥が不器用な恰好をして納屋の中を歩いてゐた。幸吉は、深い草の中をそッと履み歩いて、井戸と水漕の前を通り抜けて横手の縁側の見えるところまで來た。そこには女が一人華やかな色の切をいぢくつて縫物をしてゐた。磨き立てた一列の鍋が陽の光を受けてキラ〳〵チラ〳〵光つてゐた。蟋蟀が暖い草の中で眠さうに鳴いてゐると、ちいさい黄蝶がいくつとなく香の高い花葵の上を舞つてゐた。

縁側にゐた婦人が急に聲高々と陽氣な唄を唱ひ出した。幸吉は暫時ぢつと聽きすましてゐたが、かれの目は庭の小蔭の樹の下に小さい大理石の板石が立つてゐるのに移つた。幸吉は、

「田舍ではこんなところに名札を置くんだな。あ、女の名だ。加藤まさと彫つてある。あの女の人の名前なんだ」と思つた。

彼はソッと家の正面へ廻つていつた。そこにも花壇があつて白い可愛い猫が段々の上で眠つてる一人の女が明いた窓のところで編物をしてゐた——もしかしたら菊ちやんの「母ちやん」になるひとかも知れない。この人を見たら、幸吉の心臓が堪へられないほどどき〳〵して來たのでかれは菊嬢とポチとが一緒になつてぐつすり寝てゐる手軍のあるところへよろ〳〵と歩き戻つた。かれは菊嬢の顔を心配さうに熟視して、ポロに近いハンケチに唾をつけてその鼻の端についてゐる泥をこすり落として、さてその車を曳いて家の門に通じてゐる小路を通つて門を開けて中に入り段々を登つて案内を乞ふた。どうぞ入りといはれる事と子供心の正直さで信じきつて待つてゐた。（つゞく）

一、文部省は家庭教育振興に關し道府縣に訓令を發すること。
二、文部省は家庭教育振興に關し成人教育費中より道府縣に之が經費を交付すること。
三、道府縣市町村に婦人團體の聯合機關を速に設け且つ全國的の聯合團體を設置すること。
四、家庭教育指導者養成機關を設置すること。
五、家庭教育の指導機關を文部省及道府縣に設くること。
六、社會教育學校教育從事者をして一層家庭教育振興に力を致さしむること。
七、家庭教育と學校教育との關係を一層密接ならしむること。
八、家庭教育相談所を設くること。
九、講座、講習、展覽會等を開催すること。
十、兒童遊園、幼稚園、托兒所、日曜學校、子供會等の補導施設の改善普及を圖ること。

雜　錄

家庭教育振興に關する諮問の答申案

先般全國社會教育主事會議に於て文部大臣の諮問「家庭教育振興上適切なる方案如何」に對して得られた答申書は左の如し。

家庭教育の要諦は父母長者各々其の責に任じ健全なる家風並に一家團欒の家庭愛の下に常に子女に對し理解と同情とを持し之が個性に注意し以て優良有爲なる國民を養成するに在り、而して輓近動々もすれば我國家庭の固有の美風を破壞するの憾なきにあらず此の際に當り家庭教育の振興を期せんには之が振興方策多々あるべしと雖も就中左の實施方案の實現を急務なりと認む。

十一、活動寫眞、ラヂオ、レコード等の民衆娯樂施設を家庭本位とし其の改善を圖ること。

十二、讀物玩具等の改善を圖ること。

十三、健實なる家庭生活を傷くべき事象に對しては嚴正なる批判を加へ之が絶滅を期すること。

昭和三年度幼稚園統計

——文部時報第三五〇號より——

幼稚園

種別	官立	公立	私立	計
園數	二	四二九	八六二	一、二九四
（昭和四年三月一日現在）				
保姆 有資格	一四	一、一〇五	一、三六八	二、四八七
保姆 無資格	—	三七七	一、〇五五	一、四五二
保姆 計	一四	一、四八二	二、四二三	三、九、一九
（同 上）				
幼兒 男	二二二	二六、五二二	二六、二〇六	五二、九二〇
幼兒 女	一八三	二一、〇四八	二七、〇二五	五二、二五〇六
幼兒 計	三九五	五一、五六〇	五五、二八一	一〇七、二三六
（同 上）				
保育滿期者 男	二三九	二〇、二二八	一七、二一六	三七、九五二
保育滿期者 女	一二二	一八、九四四	一六、三六八	三五、四四四
保育滿期者 計	二四一	三九、一六二	三三、五三四	七三、〇三七
（自昭和三年四月至同四年三月）				
入園者 男	一四六	二四、二二二	二四、九九六	四九、三六四
入園者 女	一三〇	二二、六〇四	二六、一七〇	四五、九〇四
入園者 計	二七六	四六、八二六	四八、一六六	九五、二六八
（同 上）				
一園ニ付保姆比例	七、〇	三、五	二、八	三、〇
一園ニ付幼兒比例	一九七、五	一二〇、二	六四、一	八二、九
一保姆ニ付幼兒比例	二八、二	三四、八	三二、八	二七、四
官公私立小學校尋常科兒童千人ニ付幼兒比例				二、八

幼稚園府縣別

道府縣	園	幼兒			
北海道	二四	一、三八一	秋田	一二	七〇二
青森	一〇	五八二	山形	一五	一、一八一
岩手	一三	六七四	福島	二〇	一、六二〇
宮城	一三	九九〇	茨城	一七	一、二七〇
			栃木	一七	一、一六八

群馬	一五	一、六〇一	
埼玉	二〇	八七七	
千葉	二一	一、八六〇	
東京	二〇五	一二、二二四	
	* 一	* 一六一	
神奈川	二五	一、五〇二	
新潟	二一	二、〇九六	
富山	一三	一、一六四	
石川	一九	一、五一二	
福井	二五	一、八五六	
	△ 一		
山梨	七	四一五	
長野	一九	一、〇一七	
岐阜	一〇	七一〇	
靜岡	四二	四、二八三	
愛知	五七	五、〇九五	
三重	二四	二、二一二	
滋賀	一八	一、六四二	
京都	三七	三、九三三	
大阪	九五	一三、二〇九	
兵庫	一一三	九、三七三	
奈良	一一	一、一四〇	
	* 一	* 二三四	
和歌山	一五	一、九六二	
鳥取	八	六九二	
島根	一二	一、〇六六	
岡山	六三	五、五二一	
廣島	三七	二、二二五	
山口	二三	一、八七三	
德島	二一	一、七九五	
香川	二三	二、〇九〇	
愛媛	一七	一、一五八	
高地	四	四五九	
福岡	二七	二、三一八	
佐賀	八	八三六	
長崎	二一	一、八二六	
熊本	一七	一、三五〇	
大分	二四	一、九四六	
宮崎	一三	九一八	
鹿兒島	一七	一、三四八	
冲繩	三	二〇五	
總計	一、二九四	一〇七、二三六	

（昭和四年三月一日現在）

本表＊印は官立東京及奈良兩女子高等師範學校各附屬ノ幼稚園ニ係ルモノナリ。△印ハ分園ナリ。

幼稚園累年比較

年度	園	保姆	幼兒	保育滿期者	入園者
昭和三年度	一、二九四	三、九一九	一〇七、二三六	七三、〇三七	九五、二六八
同 二年度	一、八二	三、五九八	九九、三七四	六七、三五五	八七、二一〇
大正十五年度	一、〇六六	三、二七四	九四、四二五	六三、三九八	八〇、六九三
昭和元年度	九五七	二、八二五	八三、三二一	五二、九八一	七〇、三三三
大正十四年度	八四七	二、四六四	七一、六三三	四四、三三四	六二、五七一
大正十三年度	八〇一	二、二七三	六六、六八七	四二、三五五	五七、〇九四

本表園、保姆、幼兒ハ年度內三月一日現在ニシテ保育滿期者入園者ハ年度內（本年四月ヨリ翌年三月マデ）ノ事實ナリ但シ昭和二年以前ニ係ル園及保姆ハ年度內三月三十一日現在ナリ。

文部省主催

幼稚園に關する講習會

既報の通り七月二十二日より同二十七日迄六日間、東京女子高等師範學校に開催された。政府の緊縮政策にたゝられてか、毎年奈良女子高等師範學校に於ても開催される同講習會が本年はないため、こちらに受講申込が殺到して豫定員百五十名を通過まること、實に百十一名に及び全部が收容されたので甚だ盛會であつた。

稟告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割增）

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

一ケ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ケ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ケ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和五年八月十二日印刷納本
昭和五年八月十五日發行
幼兒の教育　第三十卷第八號

不許複製
禁轉載

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五　堀七藏

印刷者　東京市麹町區飯田町二丁目五十番地　須藤紋一

印刷所　東京市麹町區飯田町二丁目五十番地　京華社印刷所

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會　振替口座東京一七二六六番

廣告

特等面一頁	金參拾圓	二等面一頁　金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

廣島文理科大學教授 文學博士 久保良英 先生新著

兒童研究所紀要 十三卷

大判 定價金一圓五十錢 送料 洋裝二冊 全二百三十頁 圖版 金拾八錢

教育的に先進國たる歐米諸國に於は、既に來國家の構成に重要なる位置を占むべき兒童を心理的、生理學的に研究し純粹なる學的立場から益々其效果を收めんと企て右施設に巨額の國費を擲つて惜まざる今日獨り我邦に、該機關の絶無なるを慨し、久保博士同好の士が私財を投じて設立せられし本研究所の貴重なる研究の發表は、恒に現代教育家の根抵的指導として學界に推奬せらる。

十三卷內容目次

兒童の體型と性格　文學博士　久保良英
基本選定兒童群に於ける宗教意識の基礎的研究　關寛定
死亡原因の相關的研究　文學士　松本順之
練習轉移の研究　文學士　千葉清治
吃音兒の研究　文學博士　久保良英
體力測定、附脚長及び扁平足の調査　小林一滋
自由畫による幼兒の精神發達測定　文學士　桐原葆見
適性檢査法の實施及び檢討　安藤謐次郎
兒童社會生活の一側面に於ける觀察　文學士　青木誠四郎
低學年に於ける團體智能檢査法　文學博士　久保良英

兒童研究所紀要 合輯

1/2/3

1234合輯　定價壹圓五拾錢 送料五拾四錢

567合輯　定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢

8910合輯　定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢

大判 洋綴背皮天金 紙數千貳百頁餘 定價金十圓五十錢 送料金五十四錢

智能査定用具

ボール紙型箱入 一組參圓送料拾八錢

智能の査定が手輕に出來る。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。

團體的智能檢査用紙

A式 B式

大判 全二冊 定價各冊參錢

本用紙は久保先生の考案になる兒童智能檢査用紙團體的用。

發行所 東京市牛込區 東京辨天町一七四 中文館書店 振替東京三八二四 電話牛込三三二七番

東西幼年童話新選

梅の巻
櫻の巻
菊の巻
楓の巻

尋常一・二・三年程度

東西童話新選

天の巻
地の巻
人の巻
文の巻

尋常四・五・六年程度

成城小學校訓導
奥野庄太郎先生著

兒童圖書館用書

折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其飜譯や飜案が難話な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供の知能、子供の情緒、子供の德性を培ふ源泉たる筈です。

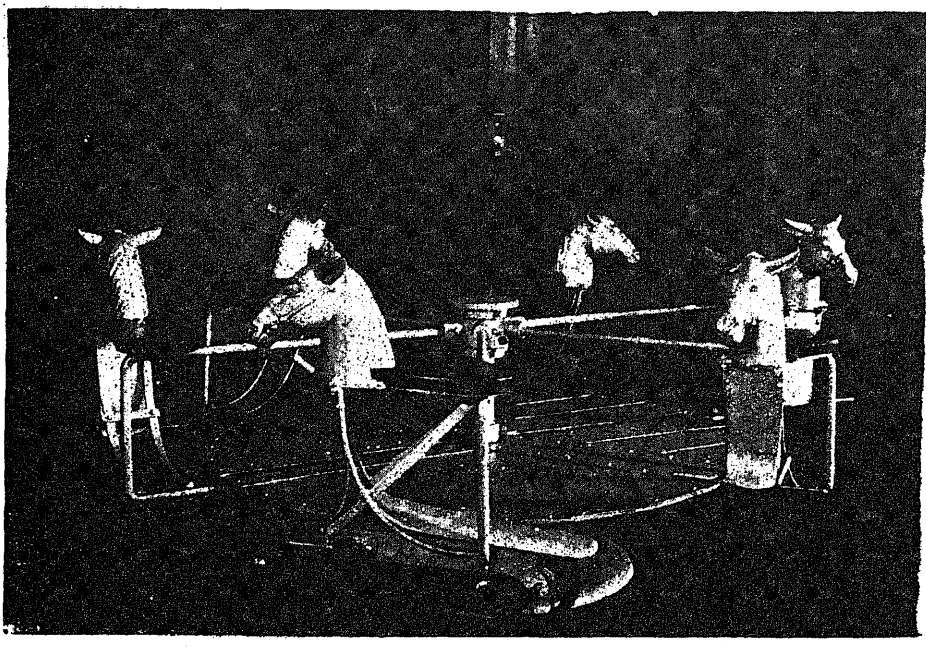
本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが滿ち溢れてゐます！小館は曩に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し全國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を撰び、優雅な裝幀堅牢な美本として新に提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

各臺冊の定價と體裁

各卷菊判全一冊宛
各卷總クロース洋綴
各卷紙數五百頁宛
各卷挿畫四十宛
各卷彩色畫四葉
各卷定價二圓宛
各卷送料廿七錢宛

東京市牛込區天町一七四
中文館書店
振替東京三八四二七番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回十五日發行）
昭和五年八月十二日印刷納本
昭和五年八月十五日發行



新に出來たメリーゴーラウンド

新製品

改良メリー・ゴー・ラウンド

六人乘　定價金八十八圓也

全部鐵製、永耐久性。

一人〳〵馬の首を附け、

自轉車のチエーンと同理にて

一人が踏めば六人一緒に

自動的にくる〳〵回轉する。

興味、實益、外觀共に

比類なき逸品。

東京、神田、教育會館內

株式會社フレベール館

定價三十五錢